

# 令和5年度 国立市自立支援協議会全体会議 議事録

【日時】 令和6年（2024年）3月5日（火） 午後6時00分～午後8時00分

【場所】 矢川プラス 多目的ルーム

【出席者】 (敬称略)

委員氏名	所属	分野
堀江 まゆみ	白梅学園大学 子ども学部発達臨床学科	学識経験者
北本 雅子	しょうがいしゃ・しょうがいしゃ 団体等関係者	市民
芳賀 弘幸	しょうがいしゃ・しょうがいしゃ 団体等関係者	市民
新井 ゆみ	国立市医師会	医療関係者
松田 周平	国立市社会福祉協議会	福祉関係者
林 幹泰	NHK学園福祉教育センター	当事者部会代表

※傍聴者 2名

【事務局・・・各部会】 (敬称略)

氏名	所属	分野
奥迫 真理恵	多摩棕櫚亭協会なびい	しごと部会事務局
山地 圭子		
白川 加世子	かいゆう 相談支援エプシロン	あんしん部会事務局
吉埜 章子		
篠原 由美	福祉サポートライン ・ くにたち	当事者部会事務局
中根 英樹		
市川 享吾		
鈴木 サエ	滝乃川学園 相談支援センターみなも	ちいきこうりゆうぶかいじむきょく 地域交流部会事務局
横須賀 幸子		

【事務局・・・しょうがいしゃ支援課】

氏名	所属 ・ 役職等
長田 健	課長
関根 義矢	相談支援係長
石川 隆一朗	相談支援係主査
饗場 久	相談支援係 当事者部会担当
吉川 直澄	相談支援係 しごと部会担当
山下 紀子	相談支援係 あんしん部会担当
岩崎 智美	相談支援係 地域交流部会担当

【事務局】 国立市自立支援協議会全体会、まずは資料の説明をさせていただければと思います。皆様

のお手元に資料が9種類、ちょっと多いんですけどもいっているかと思しますので、御確認ください。

まずは、議事次第、委員名簿、①の「しょうがいしゃ自立支援協議会」・「しょうがいしゃ施策推進協

議会」対比表、②の自立支援協議会の再検討について、③の新体制イメージ（案）です。本日机上配付

資料①といたしまして、令和6年度国立市自立支援協議会「第1回地域課題協議部会（仮名）」実施要項

と「開催します」というもので、2枚の紙がホチキス留めになっているものでございます。2枚目は

両面になっています。④が、第三次国立市しょうがいしゃ計画（骨子案）、⑤が、第7期国立市しよ

うがい福祉計画・第3期国立市しょうがいしゃ福祉計画です。最後に、⑥のご意見・御質問票というところ

で、全部で9種類の資料があるかと思うんですけども、皆様、御不足等はございませんでしょう

か。ありがとうございます。

本日、議題といたしまして、2つ用意をさせていただきました。まず、①が国立市自立支援協議会

の今後の方向性について、②に、第3次国立市しょうがいしゃ計画及び第7期国立市しょうがい福祉

計画・第3期国立市しょうがいしゃ福祉計画についてです。①が今日の本題になりますので、こちらの

資料の説明をさせていただければと思います。

全体としましては、前回、開催があったのが令和5年3月13日ということで、約1年ぶりの全体会

の開催となるんですけども、前回の全体会の際に、今後の自立支援協議会の方向性について提案さ

せていただいたんですけども、そのときに確認をさせていただく必要があるよねという項目が幾つ

かありましたので、まずは前回の全体会の振り返りからさせていただければと思います。

では、全体会の資料の②を御覧いただければと思います。自立支援協議会の再検討についてでござ

いまして、1、前回の全体会を振り返りとしまして、大きく2つのポイントがあったかと思ひます。

1つが、全体会の役割をどうするのかという整理が必要だということと、自立支援協議会の役割

がどういふものなのか。また、しょうがいしゃ施策推進協議会という協議会もあるんですけども、

そちらの協議会の役割も踏まえて、どういふふうに違ふのかをまずは整理する必要があるだろうとい

うところが1点。もう1点、部会の在り方についてです。その整理の仕方をどういふふうにする

のか。それこそもう少し整理してから全体会のほうにお話しをするべきだろうという御意見もあつた

ので、その2点、大きくポイントとしてあつたと思ひます。

その2点について、事務局でこの1年をかけて振り返りをするるとともに、どういふふうにしていく

のかというところを話し合つてきたわけですけども、令和5年度、大きく分けて3回、9月と12月

と2月に事務局会議をやらせていただいております。

まず、9月の事務局会議のときに、自立支援協議会、全体会の役割についての整理させていただき

ました。しょうがいしゃ施策推進協議会は、市の附属機関として計画の諮問及び答申を行う場であ

り、一方で、自立支援協議会は、関係機関等による情報の共有、関係機関との連携の緊密化を図る

場であることを確認いたしました。

こちらは、全体会資料①、A3横の資料になるんですけども、自立支援協議会と施策推進協議会

の対比表を作らせていただいております。見ていただくと分かるんですけども、自立支援協議会と

しさくすいしんきょうぎかい　こんきよほうれい　もと　はな　あ　ば  
施策推進協議会がどういった根拠法令に基づいていて、どんなことか話し合う場なのかというところ  
が、一目で分かるような資料になっていることを思います。

しさくすいしんきょうぎかい　きょうぎじこう　み　ちようさ　しんぎ　しんぎ  
施策推進協議会の協議事項のところを見ていただくと、調査、審議することだったりとか、「審議」  
という言葉が入っているんです。審議という言葉調べると、可否を決める、最終的に結論を出す、  
はっきりさせるといった意味があります。協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって締結し、  
可否について会長の決するところによるというふうに、協議事項のところにも書かせていただい  
ていますが、なので可否を決めるということがポイントなのかなと思います。

いっぽう　じりつしえんきょうぎかい　きょうぎじこう　か  
一方で、この自立支援協議会なんですけれども、①から⑤まで協議事項が書いてありますけれども、  
情報の共有に関することであったり、課題の整理であったりとか、そういったものを共有するよう  
な場であるといった記載がございますので、自立支援協議会というところは、そもそも白黒ははっきり  
つける場ではない、最終的に結論を出すような場ではなく、あくまでも情報共有であったりと  
か整理、対応したりするようなところであるということが確認されました。

しりょう　もと　がつ　じむきょくかいぎ　ぜんたいかい　ぶかいとう　きょうぎ  
資料②に戻っていただいて、9月の事務局会議のところになりますが、全体会は部会等で協議した  
内容に対し、全体として御意見をいただく場であることを再確認し、自立支援協議会で出た御意見等  
については、市が施策の検討の際に参考とするといった立ち位置であることを確認いたしました。

ぶかい　あ　かた　がついこう　じむきょく　ないぶ  
そして、この部会の在り方についてなんですけれども、こちらについても9月以降、事務局の内部  
で協議をいたしました。部会の在り方については、まず、自立支援協議会の在り方を考える上で、今、  
きぞん　ぶかい　ほん　はしら　ぶかい　いちどさいへんせい　けんとう  
既存の部会が4つあるわけなんですけれども、その4本の柱、部会をもう一度再編成することを検討した

ときに、どういうふう<sup>へんせい</sup>に編成していこうかという話<sup>はなし</sup>になったんですが、話し合うテーマ<sup>はな あ</sup>を想定したと  
きに、既存<sup>きそん</sup>の4部会<sup>ぶかい</sup>で取り上げるテーマの間口<sup>と あ</sup>の広さ<sup>まくち ひろ</sup>というか題材<sup>だいざい</sup>、テーマの広さが今の部会<sup>ひろ いま ぶかい</sup>だとそ  
れぞれ異なる<sup>こと</sup>。それはもちろんそうですよね。それぞれの部会<sup>ぶかい</sup>での話し合う内容<sup>はな あ</sup>は異なる<sup>ないよう こと</sup>んですけれ  
ども、部会<sup>ぶかい</sup>ごとに負担感<sup>ふたんかん</sup>が偏<sup>かたよ</sup>ってしまうのではないかという御意見<sup>ごいけん</sup>が出ました。また、どこの部会<sup>ぶかい</sup>にも  
当てはまらないテーマ<sup>あ</sup>だったり、かぶるようなテーマ<sup>で</sup>だったり、そういうものが出たときにどこで  
ういうふう<sup>はな あ</sup>に話し合うのかというよう<sup>ぎろん</sup>な議論<sup>で</sup>も出ました。部会<sup>ぶかい</sup>を再編成<sup>さいへんせい</sup>することで事務局<sup>じむきょく</sup>が集約<sup>しゅうやく</sup>し  
た地域課題<sup>ちいきかだい</sup>というものを振り分けやすくなるのではないかという話<sup>はなし</sup>も出ました。また、協議<sup>きょうぎ</sup>すること  
が部会<sup>ぶかい</sup>の目的<sup>もくてき</sup>であり、作業<sup>さぎょう</sup>することは部会<sup>ぶかい</sup>の目的<sup>もくてき</sup>ではないというところで、手段<sup>しゅだん</sup>と目的<sup>もくてき</sup>を明確<sup>めいかく</sup>にする  
必要<sup>ひつよう</sup>もあるという御意見<sup>ごいけん</sup>も出ました。

資料<sup>しりょう</sup>の裏面<sup>りめん</sup>に行<sup>い</sup>っていただいて、令和5年12月事務局会議<sup>れいわ ねん がつじむきょくかいぎ</sup>にて、9月の事務局会議<sup>がつ じむきょくかいぎ ぎろん</sup>の議論<sup>へ</sup>を経まし  
て、市のほうから協議<sup>し</sup>することが想定<sup>きょうぎ</sup>されるような課題<sup>そうてい</sup>と、それに対応<sup>かだい</sup>した部会<sup>たいおう</sup>の一般的な名称<sup>ぶかい</sup>、例<sup>いっぼんてき めいしょう たと</sup>  
えば子ども部会<sup>こ ぶかい</sup>だったり、サービス部会<sup>ぶかい</sup>というよう<sup>めいしょう</sup>な名称<sup>こ</sup>、子どものこと<sup>かん</sup>に関しては、子ども部会<sup>こ ぶかい</sup>  
協議<sup>きょうぎ</sup>しましょうと1対1対応<sup>たい たいおう</sup>みたいな、課題<sup>かだい</sup>とそれに対応<sup>たいおう</sup>した部会<sup>ぶかい</sup>の一般的な名称<sup>いっぼんてき めいしょう</sup>が分かるよう<sup>わ</sup>な  
一覧表<sup>いちらんひょう</sup>と、4つの部会<sup>ぶかい</sup>を編成<sup>へんせい</sup>し直す組織<sup>なお そしきす</sup>図<sup>し</sup>というものを市<sup>し</sup>が作成<sup>さくせい</sup>をしまして、そちらの資料<sup>しりょう</sup>を基<sup>もと</sup>に  
協議<sup>きょうぎ</sup>をいたしました。

協議<sup>きょうぎ</sup>しましたところ、この部会<sup>ぶかい</sup>の名称<sup>めいしょう</sup>を変えて、4本の柱<sup>ほん はしら</sup>、4つの部会<sup>ぶかい</sup>という形<sup>かたち</sup>で再編成<sup>さいへんせい</sup>をした  
ところで、部会<sup>ぶかい</sup>の数<sup>かず</sup>に限り<sup>かぎ</sup>がある以上<sup>いじょう</sup>、全ての課題<sup>すべ</sup>を網羅<sup>かだい</sup>することができないのではないかとい  
御意見<sup>ごいけん</sup>だったり、協議<sup>きょうぎ</sup>する内容<sup>ないよう</sup>の整理<sup>せいり</sup>や部会<sup>ぶかい</sup>の運営<sup>うんえい</sup>を、通常業務<sup>つうじょうぎょうむ</sup>を兼ね<sup>か</sup>ながらそれぞれの事業所<sup>じぎょうしょ</sup>が担

うということに困難さがあるといった御意見が出ました。また、これまでの部会だと、課題の抽出

方法が明確化されておらず、形式的なものになりつつある部会もあるというお話もあり、また議論の

透明性を担保することを考える必要があるとなると、そもそも4つの柱で部会ありきの再編成とい

う考え方そのものをなくしたらどうかという御意見が出ました。

新たに地域課題について定期的に協議する場として部会を一本化して、常設したらどうかという

意見で、令和5年12月の事務局会議は話が終わりました。

12月の段階で議論がまとまり切らなかったのもう一度、2月に事務局会議を開催させていただ

きました。2月の事務局会議では、前回の議論を経て、4事業所の皆様より作成していただいた新体系

イメージ図を事務局間で共有しました。これは、全体会資料③の新体制イメージ（案）になります。

こちらの図で、事務局内でイメージの統一化を図ったという動きでした。

2月は課題を整理し、どんな課題から着手していくのかというところを、仮称ですけれども、地域

課題協議部会というところで、どの課題から着手していくのかを議論する場としてはどうかという

ような御意見が出たり、地域課題協議部会の参加者についてはどうするのかという議論になりました。

ここにも書いてあるんですが、いきなり間口を広げ過ぎると、運営が困難になってしまいかねない、

困難になることが予想されるので、まずは地域の個別相談案件を受けている市内の相談支援事業所を

集めて開始し、今後、福祉サービス事業所などにメンバーを広げていったらどうだろうかというよう

な御意見で話がまとまりました。

全体会資料③新体制イメージ（案）を御覧いただきたいんですけども、もともと4つ部会があっ

たんですけども、4つという柱はしら しばに縛られるのではなく、部会という形ぶかい かたちで新たに一本化し、これを常設化じょうせつかするということで、この図の真ん中に、地域課題協議部会ちいきかだいぎょうぎぶかい（仮名）常設かめい じょうせつと書かせていただきました。参加事業所さんかじぎょうしょだったりとか、個人等こじんとうから上がってきた地域課題ちいきかだいについてこの中で整理をして、どの課題かだいからやっていくのかについて議論ぎろんをするような場ばとしてはどうかというところで話はなしを整理いたしました。

その四角しかく なかの中に、事業所じぎょうしょ、当事者とうじしゃ、社協しゃきょう、市しと書かせていただいているんですけども、それぞれ地域の支援者ちいき しえんしゃだったり、社会資源しゃかいしげん、もちろんこれは市民しみんの方かた、当事者とうじしゃの方かたが入っているわけですが、みんながここで集まって課題を整理あつ かだい せいりをして、みんなで考えていきましょうという形かんが かたちにいずれしていけたらいいね、なったらいいねというところで書かせていただきました。まずは、先ほど言いましたけれども、最初さいしょは市内しんないの指定特定相談支援事業所していとくていそうだんしえんじぎょうしょを集めて、1度あつ どそこで課題の整理かだい せいりをさせていただく形かたちで始められたらと思っております。

ワーキンググループについてですけども、ワーキンググループは具体的に作業する場くたいてき さぎょう ばになるんですけども、課題を整理かだい せいりして、どの課題から着手かだい ちゃくしゅしていくのかを議論ぎろんした先に、そこで作業さぎょうをやっている場ばをどうするのかについても、この地域課題協議部会ちいきかだいぎょうぎぶかいの中で方向性なかに ほうこうせいも決める形き かたちで話はなしを整理いたしました。全体資料ぜんたいしりょうの③の下したのところに書いてありますけれども、メンバーは、テーマ、課題かだいに合わせて声かけや広く募集こえ ひろく ぼしゅうを行う、ワーキンググループの構成員こうせいいんや作業内容及び活動期間さぎょうないようおよ かつどうきかんの方向性ほうこうせいについて地域課題協議部会ちいきかだいぎょうぎぶかいの中で、ある程度の方向性ていど ほうこうせいを決めた上で、ワーキンググループのほうで主体性しゆたいせいを持ってやっていこうという形かたちで進めたらどうだろうと話はなしをまとめました。

ぜんたいかい しりょう せつめい れいわ ねんど しんたいせい おも  
全体会の資料の③まで説明させていただいたんですが、令和6年度からこの新体制でいきたくと思

っておりますので、実際に、第1回の地域課題協議部会をどのようにやっていくのかについて、実施

ようこう さくせい きじょうはいふしりょう ころん  
要項を作成させていただきました。机上配付資料の①を御覧ください。

もくてき にちじ かいじょう さんか ないようとう か にちじ  
目的、日時、会場、参加、内容等とそれぞれ書かせていただいておりますけれども、日時について

ですが、令和6年6月頃にはやらせていただければと考えております。会場は市役所3階の第1・

だい かいぎしつ そうてい さんか しなしいていとくていそうだんしえんじぎょうしょ じそうだん  
第2会議室を想定しております。参加については、市内指定特定相談支援事業所、しょうがい児相談

しえんじぎょうしょ じぎょうしょ さいだい めい ごさんか そうてい  
支援事業所というところで、事業所ごとに最大5名までで御参加いただくことを想定しております。

ないよう ひごろ しえん おこな なか かくじぎょうしゅ みなさま かか こんなんあんけん  
内容としましては、日頃から支援を行う中で各事業者の皆様が抱えていらっしゃる困難案件について

じょうほうきょうゆうおよ ぶんせき  
の情報共有及び分析をすることでいかがでしょうかということで作らせていただきました。

た れいわ ねんど がつ しょうがいしゃそうごうしえんほう いちふかいせい きょうぎかいかんけいしゃ  
また、その他のところに、令和6年度4月から、障害者総合支援法の一部改正により、協議会関係者

たい しゅひぎむ か じょうぶん ついか ともな かいぎ まえ しゅひぎむ  
に対して守秘義務を課するという条文が追加されていることに伴いまして、会議の前に守秘義務につ

せいやくしょ しよめい うえ こじんじょうほう わ かたち あんけん も よ  
いての誓約書への署名をいただいた上で、個人情報が出らないような形で案件を持ち寄っていた

たくということになります。

まいめ すこ かいさい はし だ すこ  
2枚目ですけれども、こちらは少しでも開催に走り出したいということで、少しでもイメージが

わ おも りょうめん さくせい さんかもうしこみようし  
湧いたほうがいいのかと思いましたが、チラシを画面で作成しております。参加申込用紙は、フ

もうしこ そうてい どうぜん  
ックスでの申込みを想定してつくらせていただいたものになるんですけれども、当然ファクスだけで

た もうしこ ほうほう かんが おも いま だんかい さんかもうしこみしょ てんぷ  
はなく、その他の申込み方法も考えられるかと思っておりますので、今の段階では参加申込書を添付した

かたち れいわ ねんど かたち ねんかんじむきよく はなし ないよう  
形です。令和6年度からこの形で、1年間事務局のほうで話をまとめてきたこの内容をやらせてい

ただければとは思っております。

本日、この場でお話しさせていただいた後に、それぞれ部会のほうで、必要であれば御説明をさせていただきます。第1回の協議部会の実施という形で進めていければと思っております。

すみません。ちょっと駆け足でございましたが、資料の①②③と机上配付資料の①の御説明をさせていただきます。

会長、すみません、資料の説明を先にさせていただいた形になりますが、お願いしてよろしいでしょうか。

【会長】 遅れまして申し訳ございませんでした。今説明いただきました。市のほうとは、今の内容については事前に会長とやり取りをしまして、改善点も申し上げた上で資料が作成されておりますので、私のほうでは事前にこの内容は把握しております。

さて、今の説明につきまして、ちょっと自由に御意見などをお寄せいただいて、改善していくところがあれば、この場で改善していきたいと思えます。御質問、御意見がありましたらよろしく願いいたします。

【委員】 これは②ですか。

【会長】 ①です。これからの自立支援協議会の進め方を、今まで4部会でやっていたものから地域課題協議部会というものに一本化して、そこで課題をまとめてワーキンググループをつくっていく、今までのやり方とちょっと全然違うやり方で今年度からやりたいと、やってみてはどうだろうかという提案です。

【委員】 わ 分かりました。ありがとうございます。

【会長】 みな 皆さんは、イメージはつきますか。オンラインの方も御質問いただければと思います。

【委員】 てん うかが おも ちいきかだいきょうぎぶかい じっしょうこう なか みのが もう 2点ほど伺いたいと思います。地域課題協議部会の実施要項の中に、見逃していたら申し

わけ 訳ないんですが、ひんど 頻度みたいなものというのは事務局のほうで想定していることがありますでしょう

か。き のが 聞き逃しているかもしれません。あと、しゃきょう さんか 社協の参加みたいなことは想定されているのか、2点伺

います。

【事務局】 じむきょく まず、てんめ ひんど 1点目の頻度についてなんですけれども、なるべくはや なるべく早めにといいことで、がつ 6月に

かいかいさい 1回開催させていただいて、そのときにかだい せりぐあい 課題の整理具合というんでしょうか、どういったかたち せり 形で整理で

きるのかにもよるとは思うんですけれども、すく 少なくとも上半期1回、かみはんき かい しもはんき かい かたち 下半期1回という形でできると

いちばん 一番ベストなんだろうけれども、いま だんかい 今の段階ではそこはちょっとなん 何ともというようなじょうきょう 状況です。

【事務局】 じむきょく ちいきかだい きょうぎぶかい かん 地域課題の協議部会に関しては、じっさい あつ 実際にかたがた かだい せり 集まった方々の課題の整理というのがあると思

いますので、ひんど 頻度そのものはじっさい じっさい さんか 実際に参加していただいた方と協議しながら、かた きょうぎ たと げつ いっぺん 例えば1か月に一遍やっ

ても、かた もんだい ほかの方がかた もんだい ぜんぜんわれわれ 全然我々としてはかま 構わないので、ばしょ さんか 場所と参加いただいている方々が可能

であれば、なるべくはや せり たと なるべく早いうちに整理して、たと 例えばワーキングをつくってみようかというかつどう お 活動に落とし

ていくというのはそうてい おも 想定されるかなと思います。

さいてい かい 最低1回はもちろんおこな 行いますが、かい かだいせり 1回だと課題整理ができないんじゃないかとわたし おも 私は思うので、あ

さんか さんか かたがた みな いそが なか じかん き ようす とは参加される方々の、皆さんお忙しい中お時間をつくって来ていただくので、その様子によっ

て、たと らいげつ それとも再来月にしますかというところは、たと ば き 決めていければなと思います。

社協さんは、サブらが社協さんとして特定相談支援事業所ですので、一旦はそちらで参加いただければなとは思っています。

【委員】 分かりました。ありがとうございます。確かに1回ではなかなか整理がつかないというのがあるのかなとは思ったので、聞いて安心しました。

昨年度までの課題を、恐らくすごく丁寧に事務局さんの中で検討されたりして、まだこれからという部分もあるのかもしれませんが、そういった部分が資料からも伝わってきて、職員さん含めて大変お疲れさまでした。なぜ社協がという話は、伺っているとやはり地域コミュニティーの運営というんでしょうか、いわゆる我々CSWという呼称で活動していますけれども、そういうコミュニティワーク的な部分の要素も今後こういう形にすると強くなっていくのかなと思っただので、その辺の親和性をちょっと伺いたかったですけれども、また一緒に考えさせていただければと思います。お疲れさまでした。ありがとうございます。

【委員】 2つあります。1つは、地域課題協議部会の実施要項の目的として「関係機関等による情報の共有、関係機関等の連携の緊密化を図ること」とあります。あと、先ほど説明の中で、自立支援協議会と推進協議会の対比表にも、自立支援協議会の協議事項①から⑤があって、そのときも連携強化や情報共有こそ自立支援協議会だという話がありました。それも含まれるのかと思うんですが、私たちがすごく頑張って新しい形にしていきたいと思っただのは、③の「地域における社会資源の開発、活用及び改善に関すること」、これこそ私たちがやりたくて変えていこうと思ったというのがあると思うんです。なので、目的には地域課題の解決、何らかの方法で解決をしていきたいからこそ変えて

いきたいというのがあったので、それをぜひ含めてほしいと思いました。それが1つです。

2つ目は、やはり今日の資料のホチキス留めの資料の2枚目で、協議部会のチラシですが、これはぜひやっていきたいと思っています。ただ、このチラシだと少し誤解を生まないかなと思いました。

日頃から抱えている困難案件を持ち寄り、その共有及び分析していくと、まるでケース検討のように読めなくもないと。私たちはこういうことをしようと思っていないと思えます。それぞれいろいろな

個別の課題がある、そこから地域の課題を見つけ出し、それをどうしていこうということを話し合う

のが地域課題協議部会で、決して困難事例を持ち寄るわけではないと思えますので、そこはちょっと注意が必要かなと思いました。

【事務局】 先ほどおっしゃっていただいた課題の整理以外に、社会資源の改善とかというところは当然この中に入るかなと思えますので、目的には追加していく必要があるのかなと思えます。

もう1点の抱えている困難案件というところで、ちょっとここで誤解が招く表現だったというところで、少し直していきたいなと思いました。実際、ここで個別案件は特に扱わないんじゃないか

と思っています。イメージですが、1事業所だけで見るとなかなか解決できないけれども、文殊の知恵じゃないですけども、実際集まってみたら、こことここが連携すればできたよねという案件でも

正直いいのかなと思って困難案件と入れさせていただいたんですけども、個別の課題だけというイメージが先行すると、それはそれで地域課題から離れてしまうので、そこは先ほどの御意見を踏ま

えて少し修正させていただきたいなと思えます。

【会長】 御質問者の方、今の回答でいいですか。

【委員】 ありがとうございます。

【会長】 では、要項のほうは変更してください。

【委員】 全体会資料の①に書いてあるしょうがいしゃ自立支援協議会から、しょうがいしゃ施策

推進協議会に変わる内容が書かれているんですけども、この中で、やっぱりしょうがいしゃの中で

も一番センシティブなお言葉が使われているところが結構見受けられまして、基本法第36条の4の

「監視すること」とあるんですね。「市町村における障害者に関する施策の総合的かつ計画的な推進

について必要な事項を調査審議し、及びその施策の実施状況を監視すること」、監視とはどこがどう

思っ監視なのか。これはしょうがいしゃの方、特に精神の方、すごく被害を被った事例が今まであ

りますし、特定の疾患がある方とかも結構そういう勝手につくられた法律的で苦労している歴史があ

るので、こういう「監視すること」という言葉を安易に入れられる意味がちょっと分からないんです

ね。どういう意図を持って入れていらっしゃるのか教えていただきたい。

協議事項の中にも、2番目に「監視すること」と入っているんです。そこをちょっと御説明いた

きたいかなと思ういます。

そして、区分で言いますと、しょうがいしゃ自立支援協議会というのは、結構皆さん名前をわんわ

ん話し合っていたような記憶も少しある気がするんですね。しょうがいしゃ施策推進協議会となる

と、しょうがいしゃの人たちをどうするかという施策を、法律を決めようとしているということす

か。ちょっとそこら辺が分かりにくくて、ちょっと御質問いただきたいなと思いました。

あと、何点かあるんですけども、まず、全体会資料の①を教えてください。

【事務局】 ちょっとわかりづらくて申し訳ない。全体資料の①は新旧でこう変わるではないです。

まったく別の会議体になりますので、施策推進協議会というのはまた別にございます。これに変わると

いう意味ではないです。1年前のこちらの全体会の中で、施策推進協議会と今やっている自立支援協

議会の違いは何だろう、役割は何だろうという御質問がありましたので、今回出させていただきますし

た。なので、ものとして全く違うものでございます。

施策推進協議会そのものの機能なんですけれども、監視というのは、市長が任命する市にある

審議体なので、市を監視するというようなイメージです。市の施策が、例えば計画を立てただけ

ども、市が言ったとおりにやらなかったりとか、やれなかったり、もしくはやらなかったりするとき

があるので、それを審議体が中間評価という形で見て、これはおかしいよ、ちゃんとできていない

じゃないかという、市を監視するような仕組みなので、市民を監視するというものではないものです。

【委員】 どの団体が市を監視するということですか。

【事務局】 しょうがいしゃの今回ちょっと出させていただいている後ほど見ていただくものがある

んですけども、しょうがいしゃ計画というのを市がつくることになって、しょうがいしゃ福祉計画

というのもつくるんですけども……。

【委員】 そうしたら、しょうがいしゃ自立支援協議会から、対比表としてここに描かれているので、

何からしょうがいしゃ施策推進協議会に変わろうとしているのかの事例が出ていないので、隠され

ているので分かりにくいですね。

【事務局】 わかりづらくて申し訳ないです。

【委員】 私は、施設に勤めているわけじゃないので分かりません。

【事務局】 ここは全く別物です。施策推進協議会には変わりません。

【委員】 施策推進協会自体が、今まであったんですか。これからつくろうとしている会ではなくて。

【事務局】 別にある、別のものです。別にあるので、同じようなことを審議していると、どちらがどっちなんですかというイメージが皆さんつかみづらかったので、これは市長が任命して、市を監視する、ある計画の細かい文言だとかを確認する計画を立てるための審議会というのと、それではなくて、先ほどのみんなが集まって協議して課題がどうだとかをやるのは、今回やっている自立支援協議会です。また別物です。

【委員】 では、施策推進協議会の骨子みたいなのはあるんですか。骨子というか、自立支援協議会の流れのように、二重にあるということなんですか。

【事務局】 役割が違うという形で。

【委員】 役割は違うけれども、似たようなのが。

【事務局】 そうです。なので、分かりづらいよねという話になって、こういう役割の違いがあります。施設施策推進協議会は、市長がこの計画について考えてねと、諮問と言うんですけれども、答えを出してくださいというのをまずやるんです。今ちょうど別番組みたいな形で審議中なんですけれども、それを審議して、市長、こういうふうにあつくりましたというのをあつくりながら、施策推進協議会。自立支援協議会は、先ほど言いましたように、みんなで集まって地域課題を考えていきたいと思いますよというものなので、役割の違いがありますよということになります。

【委員】 そういう意味ですか。では、もともとこの監視するという厳しい言葉はここに入っていたんですね。

【事務局】 これは障害者基本法という国の法律なので、そのままのまに入れていただけ。

【委員】 法律の文言をそのままに入れていただけなんですね。

【事務局】 そうですね。

【委員】 施策推進協議会の考え方ではなくて、一応この法律に照らし合わせに活動する会ですよということなんですね。

【事務局】 そうです。法律に基づき制定されている審議会です。

【委員】 ちょっと戻ります。自立支援協議会を何回か、もし常設としてつくった場合、予算が出るんですか。会議に出ている施設の方のところには、今ボランティア的に来ていただいているような感じなのか、予算が出るかによって、毎月集まりましようとか、2か月に1回集まりましようとか、負担は皆さん御家族もあるし大変だと思うんですね。この点は、この前、紛糾してどうなったのかなど。

【事務局】 地域課題協議部会に集まっていた分には、すみません、これは市の予算というのはないです。それぞれで必要に応じて集まっていたので、極端に言うと強制力もない。例えば今日話したいなというときに来て、ちょっと難しいときは今日はお休みしますみたいなのでももちろん問題ない。

【委員】 10の行政等における配慮の充実のところなんですけれども、必要な環境の整備というのがあるんですけれども、しょうがいしゃの人の法律トラブルはかなり多いなというイメージが私

なか わたし じっさい がっこう さ ぎ あ  
の中にはあって、私 も実際に学校詐欺に遭いまして……。

じむきょく たぶん つぎ  
【事務局】 多分それは次の……。

いいん きょうせいとう はいりょ じゅうしつ い おも  
【委員】 行政等における配慮の充実のところに入れてほしいと思いました。

いいん ねが わ じつもん  
【委員】 よろしく願いいたします。ちょっとよく分からないところがあって質問させていただければと思います。

さき ちいき かだい きょうぎかい ちいき かだい きょうゆう  
先ほどもおっしゃったように、地域課題協議部会ということで、地域の課題を共有するということ

もくてき かん さき じつもん ないよう かが こんなん  
が目的かと感じたんですけれども、先ほどの質問とかぶりますけれども、内容として抱えている困難

あんけん じょうほうきょうゆう もくてき で いっぽう こべつ あんけん いっぽう  
案件についての情報共有となると、やはり目的とちょっとずれが出てくる。一方は個別の案件、一方

ちいき じゅうてん お もんだい きょうゆう  
が地域に重点を置いたような問題の共有ということで、ちょっとそこにねじれがあるんじゃないか

か かなに かなに  
ということを感じたんですけれども、それは何か狙ってそういうふうにかかれたのか、それとも何か

かんが  
お考えがあるのかというのをまず。

きょうぎかい すず あ き  
それと、ワーキンググループと協議会、これからまた進めていくに当たっていろいろ決まってい

かんけいせい ぐたいてき  
んでしょうけれども、ここの関係性みたいなのがちょっとイメージがつかないといいますが、具体的

かたち た あ ちいきぶかい れんけい かんけい  
にいうと、どのような形でワーキンググループが立ち上がって、地域部会と連携していくとか、関係

も  
を持っていくかというところ。

はなし じりつしえんきょうぎかい わたし とうじしゃぶかい さんか  
それと、そのほかの話 なんですけれども、自立支援協議会、私 も当事者部会に参加してきました

いちばんさいしょ わたし すこ けんげん おも じりつ  
けれども、一番最初におっしゃられたように、私、もう少し権限があるかと思っていたんです。自立

しえんとうじしゃぶかい はな あ すこ し あ なん かたち  
支援当事者部会で話し合ったことが、もう少し市のほうに上がって、それが何らかの形で、もちろん

かつどう 活動もしてきましたけれども、ただ、きょう はなし 今日のお話でもありましたけれども、けつろん だ ば 結論を出す場ではない、

ていねい じょうほうきょうゆう ば 丁寧に情報共有する場である、し さんこう ば 市が参考にする場であるということで、かなりあいまい たい い ち 曖昧な立ち位置なの

かなと。その辺の立ち位置をまずしっかりわくぐ ていじ 組みを提示していただいた上で、う え われわれ こうどう 我々の行動というもの

かんが 考えないといけないのかなと思っています。お も わたし 私としてはもっとせきにん も 責任を持って、ぶんしょう なか 文章の中にもありま

したけれども、めいかく やくわり も 明確に役割を持って、もちろん し さんこう 市に参考にしていただくというのも1つのやくわり 役割だと

おも 思うんですけれども、それだけではなくて、すこ めいかく もと もう少し明確なものも求めてはいるんですけれども、す

みません、なが 長くなりましたけれども、てん ねが 3点ほど、お願いします。

【事務局】 じむきょく さき こんなんあんけん ごしつもん 先ほどの困難案件の御質問ですけれども、こんなんあんけん そうてい 困難案件というのが、あくまでもこれも想定

ですけれども、たと げんじょう つうしょ つか かいけつ であんけん た ぶん こんなんあんけん 例えば現状の通所サービスを使えば解決するような案件は、多分困難案件にならない

と思うんですね。おも こんかい かいめ かん そうだんし えんじぎょうしょ あつ 今回、1回目に関しては相談支援事業所さんがあ

りますので、そうすると、つうじょう せんもんちしき も そうだんし えんじぎょうしょ かか 通常の専門知識を持った相談支援事業所が抱えていることって、たぶん

じぎょうしょ 事業所ではできないことだったりして、なん かだい ちいきてき もんだい それが何の課題か、地域的にどういう問題があるのかとかと

いうところがなか ちゅうしゅつ おも いうところがこの中で抽出できればなと思います。

たと さいきん ひかくてきだいぶ おも むかし たと こうじのうきのうしょうがい 例えば最近是比较的大分そろってきたなと思いますけれども、昔だと、例えば高次脳機能障

つうしょ じぎょうしょ ぜんぜん し じぎょう たと しつごしょう こま 通所の事業所は全然なくて、市がサロン事業をやっていたんですけれども、例えば失語症で困ってい

るのにどうしたらいいんだろう、ゆ ば 行き場がないというところで、それはしゃかいしげん た 社会資源が足りなかったとい

けつろん う結論だったわけですが、いま しゃかいしげん じぎょうしょ 今ちゃんと社会資源ができてきたというところが、1事業所だけだとなか

むずか 難しいかもしれないんですが、あつ じゃ、これってこういふものが足りないんじ

やないかとか、もしくは私の事業所はこういうところが得意だからこっちだけはやるよというので、

例えば役割分担をしてやっていくとかということも考えながら、地域課題化するというんですか、

ちょっと想定なので何とも言えないんですけども、難しい案件から、やっぱりそれは一体どういう

問題があるんだろうというのを分析していくというのを、みんなで集まってけんけんがくがくやるこ

とを想定しています。

ワーキンググループは、多分、最初は皆さんが一気に風呂敷を広げて、最初にはあっとやってしま

うとすごく大変で、もう何がなんだか分からなくなってしまうと思うんですけども、まずは相談支援

事業所で集まって、ある程度交通整理ができるようになって、それでもいっぱい多分あると思うんで

すね。今までそれぞれの部会で抱えられなかった部分とか、言いたかった部分とかが多分事業者さん

もいっぱいあって、それがみんなが集まってくると、こういう課題、こういう課題と課題を整理して

いくと、小委員会じゃないですけども、小さなところで機動力を持って議論していったほうがいい

よねみたいところで、ワーキンググループでやっていくことが大体想定されているところです。

やっぱり大きいと集まるのも大変で、先ほどの正直お金も出せないというのもありますし、だった

ら、ちょっと気軽に集まれるところではばっと集まって、細かくその1点の項目だけを集中して審議

というか、確認していくみたいところが、機動性のあるものがワーキングかなと思います。手段と

目的が逆転しないように、ある程度の状況が、ここまで終わったら一旦ワーキングは終了すると

かという、後ろも踏まえてやっていければなと、みんなで話していました。

あと、表現の明確化についてなんですけれども、確かに明確な部分はなかなか打ち出しづらいとこ

ろだおもと思います。ただ、地域課題ちいきかだい なかの中で、みんなあつが集まってきて、こういうひつようのが必要だよね。でも、

これは連携れんけいだけではどうしてもできないよねというところがあると、それはみんないが言っているわけ

ですから、市しだって当然無視とうぜん むしはできない。そういったところさきが先ほど、今回計画こんかいけいかくを上げさせていた

いてますけれども、計画けいかくですとか市の施策し しさくのほうに反映はんえいされていくところですよ。

正直しょうじき いま、今までいっぱい議論ぎろんはされてきたんですけども、我々事務局側われわれじむきょくがわでちょっと問題もんだいがあると

たら、多分情報発信たぶんじょうほうはっしんみたいなのところが不足ふそくしていて、その部分ぶぶんがうまく反映はんえいが、実際じっさいには反映はんえいして

いるんですけども、反映はんえいできていなかった部分ぶぶんがあるのかなと思いますので、そこをちゃんと議事録ぎじろく

みたいなもの、会議録かいぎろくを作って、それをネットあに上げるなりなんなりして情報発信じょうほうはっしんをしていく。

最終的にさいしゅうてき、これは個別案件こべつあんけんじゃなくて、みんなきょうつうに共通ちいきかだいするような地域課題ちいきかだいだよなみたいなところは、

我々も一緒われわれ いっしょに同じ立場おな たちばで参加さんかしているの、自立支援協議会じりつしえんきょうぎかいではみんないがこう言っていますという

ころが出てくれば、それは市の施策し しさくに当然反映とうぜんはんえいされていくとかんがえます。

ただ、当然とうぜんといってもお金の話かね はなしもあるので、お金をどうしようかという話かねを申し上げて、市

としては、これやる代わりに、分からないですけども、例えば何かやめていい事業た と なにはあるのかなと

いうのを相談そうだんしたりというのもあるかもしれないですが、そこも自立支援協議会じりつしえんきょうぎかいで議論ぎろんできたらいい

などは思います。

【委員】 地域課題協議部会ちいきかだい きょうぎぶかいは、事業所じぎょうしょとか、当事者家族とうじしゃ かぞくとか、ちょっと当事者とうじしゃだけではなくて、当事者とうじしゃ

家族かぞくにしておいてほしいんですが、社協しゃきょうさんとか市しとがありますけれども、ワーキンググループでは

広く募集ひろ ぼしゅうを行うから、いろんな人おこなを集めてお勉強ひと あつ べんきょうできるということですか。市のこの問題し もんだいに関わる

べんきょうかいてき べんきょうかい  
勉強会的なワーキンググループ。勉強会というか……。

【事務局】 小さな収束された議論の場、多分最初はごちゃごちゃになって、例えば何個かに分かれたときに、喫緊の課題みたいなのをみんなでちょっと話してもらおうかみたいところをワーキンググループにしていくみたいなのをイメージしています。

【委員】 ということは、この地域協議部会に参加している人じゃないと入れないということですか。

【事務局】 そうではないです。

【委員】 そうですか。普通の市に住んでる人だったら参加できるみたいな感じになっていると、よりその情報にたけている人が集まれるなと思って伺いました。

【委員】 この地域課題協議部会の打合せに、うちの法人、事業所も御一緒させていただいたんですけども、さっき委員さんがおっしゃったところは本当にそうだなと思っていて、一旦こういう資料を回収されたほうがいいぐらいに感じていまして、個人情報<sup>こじんじょうほう</sup>の取扱いについてという四角の最終行<sup>さいしゅうぎょう</sup>を読むと、氏名<sup>しめい</sup>、住所等<sup>じゅうしょとう</sup>の個人情報<sup>こじんじょうほう</sup>を伏せた形で、案件<sup>かたぢ</sup>を持ち寄ってくださいというふうに書かれています。

ということは個別のお話<sup>こべつ はなし</sup>をすると読めるかなと思って、本当に我々<sup>われわれ</sup>そういう話<sup>はなし</sup>をしていないので、その場で皆さん<sup>みな</sup>本当に打合せ<sup>うちあわせ</sup>をしている4事業所<sup>じぎょうしょ</sup>は、そういう話<sup>はなし</sup>はしていないんですね。だから、この表現<sup>ひょうげん</sup>になって出てくると思っていないので、一旦、これは違いますよみたいな形<sup>かたち</sup>でされたほうがいいんじゃないかと思うんですが、皆さん<sup>みな</sup>いかがですか。

【事務局】 要項<sup>ようこう</sup>はあくまでもイメージなので、イメージ<sup>ちが</sup>が違うということであれば、そこは適宜<sup>てきぎしゅうせい</sup>修正

させていただきたいなと思<sup>おも</sup>います。こういうイメージでやりますよというところ<sup>ちいきかだい</sup>です。地域課題を

一切、ケースという<sup>いっさい</sup>か、個別の名前はもちろ<sup>こべつ なまえ い</sup>ん入れないんですけども、一切具体例なく話<sup>いっさいぐたいれい はなし</sup>をすると

い<sup>むすか</sup>うのはなかなか難<sup>おも</sup>しいかなと思<sup>い</sup>って、一応これを入れさせて<sup>い</sup>いただきました。

ただ、そうは<sup>げんじつもんだい</sup>いっても、現実問題として国立市はあまり大<sup>くにたちし おお</sup>きくないので、名前と住所<sup>なまえ じゅうしょ かく</sup>を隠して、

通所先<sup>つうしょさき</sup>とかもろもろ隠<sup>かく</sup>しても、何<sup>なん</sup>となく分<sup>わ</sup>かってしまう人も<sup>ひと</sup>いるのかなと思<sup>おも</sup>って、そこはちゃん<sup>しゅひ</sup>と守秘

義務<sup>ぎむ</sup>を課<sup>か</sup>した上<sup>うえ</sup>で、全部<sup>ぜんぶ</sup>隠<sup>かく</sup>しちゃ<sup>な</sup>うと、何<sup>なに</sup>が困<sup>こん</sup>難<sup>なん</sup>なんだか全然<sup>ぜんぜん</sup>分<sup>わ</sup>からないみたい<sup>ぐたいれい</sup>なことだと、具体例

のケース<sup>むすか</sup>として難<sup>おも</sup>しいかなと思<sup>い</sup>ったので一<sup>い</sup>応入れ<sup>く</sup>ました。ただ、具<sup>く</sup>体的なケース<sup>たいてき</sup>について、あまり

基<sup>き</sup>本的<sup>ほんてき</sup>に話<sup>はな</sup>さないというやり方<sup>かた</sup>もあり<sup>おも</sup>なのかなと思<sup>おも</sup>います。ここはあく<sup>かいしゅう</sup>までもイメージ<sup>かいしゅう</sup>なので、回収

というわけ<sup>き</sup>ではないですが、これはまだ決<sup>き</sup>まりではなくイメ<sup>じむきょく</sup>ージ<sup>ごそうだん</sup>ですので、また事<sup>じむきょく</sup>務局<sup>ごそうだん</sup>でも御<sup>ご</sup>相<sup>さう</sup>談<sup>だん</sup>さ

せて<sup>おも</sup>いただければ<sup>おも</sup>なと思<sup>おも</sup>います。

【会<sup>かい</sup>長<sup>ちやう</sup>】でも、イメ<sup>ぜんたいかい</sup>ージ<sup>ぜんたいかい</sup>といい<sup>ねん</sup>ましても、全<sup>ちいき</sup>体<sup>ちいき</sup>会<sup>ちいき</sup>な<sup>ちいき</sup>ので、全<sup>ちいき</sup>体<sup>ちいき</sup>会<sup>ちいき</sup>とし<sup>ちいき</sup>ては、2024年度<sup>ねん</sup>から地<sup>ちいき</sup>域<sup>ちいき</sup>

課<sup>か</sup>題<sup>だい</sup>協<sup>きやう</sup>議<sup>ぎ</sup>会<sup>かい</sup>というシ<sup>か</sup>ス<sup>か</sup>テ<sup>か</sup>ム<sup>か</sup>でや<sup>か</sup>っ<sup>か</sup>てい<sup>か</sup>く<sup>か</sup>とい<sup>か</sup>う<sup>か</sup>こ<sup>か</sup>を、こ<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>で<sup>い</sup>は<sup>い</sup>一<sup>い</sup>応<sup>い</sup>承<sup>い</sup>認<sup>い</sup>す<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>な<sup>い</sup>形<sup>い</sup>に<sup>い</sup>な<sup>い</sup>り<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す

よ<sup>い</sup>ね。と<sup>い</sup>な<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ば、こ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>実<sup>い</sup>施<sup>い</sup>要<sup>い</sup>項<sup>い</sup>に<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>も、こ<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>で<sup>い</sup>共<sup>い</sup>有<sup>い</sup>す<sup>い</sup>内<sup>い</sup>容<sup>い</sup>で<sup>い</sup>す<sup>い</sup>の<sup>い</sup>で、そ<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>は<sup>い</sup>自<sup>い</sup>由<sup>い</sup>に<sup>い</sup>や<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>は<sup>い</sup>い

け<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>ゃ<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>か<sup>い</sup>と思<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ます。こ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>提<sup>い</sup>案<sup>い</sup>が<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>の<sup>い</sup>で。そ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>意<sup>い</sup>味<sup>い</sup>で<sup>い</sup>は、今<sup>い</sup>、委<sup>い</sup>員<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ほ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>で<sup>い</sup>御<sup>い</sup>指<sup>い</sup>摘<sup>い</sup>が<sup>い</sup>あ

っ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>に、6番<sup>い</sup>に<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>は、1つ<sup>い</sup>目<sup>い</sup>の<sup>い</sup>文<sup>い</sup>章<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>け<sup>い</sup>で<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>ゃ<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>で<sup>い</sup>す<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ね。「総<sup>い</sup>合<sup>い</sup>支<sup>い</sup>援<sup>い</sup>法<sup>い</sup>で<sup>い</sup>守<sup>い</sup>秘<sup>い</sup>義<sup>い</sup>務<sup>い</sup>

が<sup>い</sup>課<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>れる」ま<sup>い</sup>で<sup>い</sup>に<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>して、そ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>後<sup>い</sup>は<sup>い</sup>削<sup>い</sup>除<sup>い</sup>で<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>ろ<sup>い</sup>しい<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>ゃ<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>で<sup>い</sup>す<sup>い</sup>か。こ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>実<sup>い</sup>施<sup>い</sup>要<sup>い</sup>綱<sup>い</sup>に<sup>い</sup>関<sup>い</sup>して

は、あ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>程<sup>い</sup>度<sup>い</sup>、こ<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>は<sup>い</sup>全<sup>い</sup>体<sup>い</sup>と<sup>い</sup>して<sup>い</sup>責<sup>い</sup>任<sup>い</sup>も<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>り<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す<sup>い</sup>の<sup>い</sup>で、コ<sup>い</sup>ン<sup>い</sup>セ<sup>い</sup>ン<sup>い</sup>サ<sup>い</sup>ス<sup>い</sup>は<sup>い</sup>取<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>お<sup>い</sup>か<sup>い</sup>な<sup>い</sup>け<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ば<sup>い</sup>い<sup>い</sup>け<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>。

【事<sup>い</sup>務<sup>い</sup>局<sup>い</sup>】一<sup>い</sup>番<sup>い</sup>最<sup>い</sup>後<sup>い</sup>の<sup>い</sup>文<sup>い</sup>章<sup>い</sup>は<sup>い</sup>削<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>も<sup>い</sup>全<sup>い</sup>く<sup>い</sup>問<sup>い</sup>題<sup>い</sup>ご<sup>い</sup>ざ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>の<sup>い</sup>で、削<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>形<sup>い</sup>で<sup>い</sup>い<sup>い</sup>か<sup>い</sup>が<sup>い</sup>で<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ょう<sup>い</sup>か。





かったですし、あと当事者・家族の、自画自賛するわけじゃないんですけども、どうしても事業者さん同士になると、ここまで言っていていいかしら、ここまで言っちゃいけないわよねという暗黙の空気が流れているんですけども、そこを私は知らないで質問できるわけですよ。それで、ここはこういうことこうなっているのね、ここはこういうことこうなっているんですねというのを、改めて皆さんと意識を共有できたから進めた課題がかなり多かったと思うんです。

だから、最初から事業者、支援事業所だけでやると、市としてはコントロールしやすいのかもしれませんが、発想的なアイデアはかなり狭まっていっちゃうんじゃないかなって思いました。それはいかがですか。

【会長】 さて、これは結構重要なことですけども、どうしますか。この案を考えてくださった方たちがいらっしゃるわけですね。その方たちも含めて、結構そこは大事な話なので、自由に意見を言った上で、ある程度の案をこの全体会で決めたいと思います。

【委員】 私も全く同じことを伺おうと思っていたので、答えをちょっと聞いてみたいです。

【委員】 市が説明したのと同じであれば、それで構わないし。

【委員】 知らないで、私が余計なことをずかずか言っちゃったのかな。

【委員】 この全体の考え方は、今までは部会でやらせてもらっていたように、事業者が今度を出してもらって、この地域課題の協議会で、それをその中で整理してこうという考えがあって、その初め、6月に、ちょっと広げ過ぎると、いろんな方を募集して広げ過ぎると、課題の整理が難しい、どうやって課題を集めていいかということから多分始まると思うので、事業者のみでやっていくのか、

さいしょ と はなし かいめ ちいきかだいきょうぎかい さんか  
最初は取っかかりにしようかみたいな話をしていたので、1回目の地域課題協議会は、この参加の

かたち おも ゆ ゆ ひろ かたち ちいきかだいきょうぎかい  
形になったのではないかと思います。行く行くはもうちょっと広げた形で、地域課題協議部会では

おも  
きたらいいと思います。どうでしょう。

おも  
それと、まずは前の部分を、会長の意見でいって、簡略化していくことになったんだとしたら、初

めにもうき ないよう ぶんしょう か  
めにしょうがいさんのほうで目的とか内容も、ちゃんと文章に書いていただければありがたいかな

おも わたし いこう はい おも  
と思います。私たちの意向が入ると思います。

かいちょう てん ねんど そうだんしえん ひと まどくち せってい うえ じっし  
【会長】 1点については、2024年度は、相談支援の人たちに窓口を設定した上で実施していいん

じゃないかと。

いいん かいめ ねん なんかい ひら おも かいめ せいり  
【委員】 1回目に、年に何回か開かれると思いますので、1回目は整理することもあるということ

じぎょうしゃ かたち か おも  
も、事業者のメンバーでという形で書かせてもらったんだと思います。

かいちょう てんめ もくてき すこ ちいきかだい たい しゃかいしげん かいはつ  
【会長】 2点目が、目的についてもう少し、地域課題に対して、あるいは社会資源の開発につなが

ぎろん い て  
るような議論をするとか、そこまでは入れたほうがいいだろうというのは、さっきから出ていますよ

はな ぎょうせい よさん もと たん じょうほう  
ね。もちろん話したことがすぐ行政の予算がついてということは求めませんけれども、単なる情報

きょうゆう つぎ てんかい どだい めいじ  
共有だけではなくて、次の展開につながる土台になるということをきちんと明示してほしいという

きょねん はなし  
のは、去年からそういう話はありませんね。

さて、そうなるのでしょうか。

いいん いま いっしょ い わたし あん さんせい  
【委員】 今のところの、ほぼ一緒なんですけれども、ちょっとあえて言うと、私はこの案に賛成な

けつろん い いっぽう ほうりつ もと ぶんや よう  
んですね。結論だけ言うと。ただ、一方で法律がもともと求めているような、いろんな分野の、要す

るに最初<sup>さいしょ</sup>につくった自立支援協議会<sup>じりつしえんきょうぎかい</sup>のスタートみたいなところからは随分<sup>ずいぶん</sup>、恐らく構成<sup>おそ</sup>の属性<sup>こうせい</sup>は狭ま

ってくるじゃないですか。さっき委員<sup>いいん</sup>さんがおっしゃったように、まとまりがよくなりますよね。

一長一短<sup>いちちやういつたん</sup>と言ってしまうとちょっと乱暴<sup>らんぼう</sup>なんですけれども、それを踏<sup>ふ</sup>まえた上で、実際<sup>じっさい</sup>にうまくいか

なかった、うまくいかなくなってきた、そういう時代<sup>じだい</sup>の変化<sup>へんか</sup>とかに合わせて変わ<sup>あ</sup>って来るのは私<sup>わたし</sup>はい

い<sup>おも</sup>と思っています。

ただ、一方<sup>いっぽう</sup>で、本来<sup>ほんらい</sup>入<sup>はい</sup>ってくることを法律<sup>ほりつてき</sup>的に想定<sup>そうてい</sup>されているような、予定<sup>よてい</sup>しているようなところ

の分野<sup>ぶんや</sup>はどういうふうにつなが<sup>くふう</sup>っていく工夫<sup>よ</sup>をしていくのか。これを読み込<sup>こ</sup>む限り、ワーキンググル

ープで拾<sup>ひろ</sup>ってこうしているのか、そのあたりを一<sup>いち</sup>念<sup>おん</sup>のため確認<sup>かくにん</sup>したいなと思って<sup>おも</sup>いたんですね。

もしお答え<sup>こた</sup>いただけるとありがたいんですけども。

ついでに言う<sup>い</sup>と、協議部会<sup>きょうぎぶかい</sup>のほうには入<sup>はい</sup>ってくるのか入<sup>はい</sup>ってこないのかということも、今後<sup>こんご</sup>入<sup>はい</sup>って

く<sup>かんが</sup>と考<sup>かんが</sup>えるでもいいんですけども、その辺<sup>へん</sup>の意識<sup>いしき</sup>合わせはしておいたほうがいいのかなと思<sup>おも</sup>い

ました。

【事務局<sup>じむきょく</sup>】 まず、当事者<sup>とうじしや</sup>の方々<sup>かたがた</sup>も、もちろん家族<sup>かぞく</sup>の方々<sup>かたがた</sup>も、ワーキングにはぜひ御参加<sup>ごさんか</sup>いただかな

いと、そもそも先<sup>さき</sup>ほど委員<sup>あ</sup>さんがおっしゃられたような新たなアイデアとかというのは、それぞれここで

発揮<sup>はつき</sup>していただきたいなと、市<sup>し</sup>としては思<sup>おも</sup>っています。なので、医療関係者<sup>いりょうかんけいしや</sup>の方も、医療<sup>かた</sup>とか保健関係<sup>ほけんかんけい</sup>

の関係者<sup>かんけいしや</sup>の方も、ぜひ参加<sup>かた</sup>していただければすごくありがたいですし、ワーキンググループは1つの

目的<sup>もくてき</sup>に向か<sup>む</sup>っている方<sup>かた</sup>が集<sup>あつ</sup>まっていたと。審議<sup>しんぎ</sup>する項目<sup>こうもく</sup>は狭<sup>せば</sup>まっています。1つこういうもの

をテーマ<sup>き</sup>についてやりましようというところが決<sup>だんかい</sup>まった段階<sup>き</sup>でワーキンググループをつくるようなこ

とをイメージしていますので。

ちいきかだいきょうぎふかい かん  
地域課題協議部会に関しても、まずはというところなので、まず計画相談けいかくそうだんのところで集まっていた  
だいてというところなんですけれども、別に計画相談べつ けいかくそうだんですとやることまでは想定そうていしていません  
ね。最初は全体さいしょ ぜんたいみたいな話はなしがあったんですけれども、全体ぜんたいでやると、これは正直しょうじき、事務局側じむきょくがわの都合つごう  
だと思おもいますが、実際じっさいワーキンググループた あの立ち上げとか、そういうのも含め、全然ぜんぜん実際にやっただ  
とがないし、今いままで部会ぶかいだったので、ワーキンググループをつくりましようとなつて、募集ぼしゅうをどうす  
んだみたいなのところも、ここである程度議論ていどぎろんしないと決められないきんですね。それを全体ぜんたいでやってい  
くと、正直しょうじきなかなかできる自信じしんがないということがあつて、計画相談けいかくそうだんの中で集まつて、ワーキンググ  
ループに落おとしていくやり方かたを一旦いったんそこをつくってみると、先ほど会長さき かいちょうがおっしゃつたような課題かだい  
がみつかつたりとか、こうやったほうがいいよねというところもわかつて、じゃ、広ひろげてでもできそう  
じゃないかとなつてくれば、順次じゅんじ、いろいろな人からいろいろな意見いけんとか課題かだいが出てきたほうが当然とうぜんいい  
ので、広ひろげていくのがいいんじゃないかなとは、市しとしては思おもいます。

いいん わ  
【委員】 よく分かりました。ありがとうございます。

かいちょう ねんかん かんが ほんとう かち  
【会長】 1年間かけてこのシステムを考かんがえていただいたので、本当にやってみる価値かちがあるシ  
テムだと思おもいます。

きほんてき ぜんたいかい ちいきかだいきょうぎかい ぶかい  
ただ、基本的には、この全体会ぜんたいかいが地域課題協議会ちいきかだいきょうぎかいの部会ぶかいである、なければいけないはずなんです。

なん だんかま ふ し ぎ いま ちいきかだいきょうぎかい  
何で2段構だんかまえにするんだというのが、どっちかというと思ふ議しですね。今、ここが地域課題協議会ちいきかだいきょうぎかいで  
あつて、それだで出だしながら課題かだいを考かんがえてワーキングがあればいいと思おもうんですけれども、それをやら

ないで、<sup>ぜんたいかい</sup>全体会がいつも<sup>ねんど</sup>年度の<sup>さいご</sup>最後にお飾りのような<sup>かざ</sup>形で<sup>かたち</sup>形式的に開かれるような<sup>けいしきてき</sup>体質自体を<sup>ひら</sup>改善し  
なければいけないんじゃないかと思<sup>おも</sup>います。

<sup>きほんてき</sup>基本的には、<sup>ちいきかだいきょうぎかい</sup>地域課題協議会が<sup>ぜんたいかい</sup>全体会であるのが<sup>じりつしえんきょうぎかい</sup>自立支援協議会の<sup>めいぶん</sup>名分というか<sup>もくてき</sup>目的です。そうい  
う意味では、<sup>いみ</sup>当事者の方や<sup>とうじしゃ</sup>社協の方たち<sup>かた</sup>全員が<sup>しゅきょう</sup>集まった上で<sup>かた</sup>地域課題を出して、<sup>ぜんいん</sup>その中で<sup>あつ</sup>ワーキング  
をつくるのであれば<sup>かま</sup>構わないけれども、<sup>だんかま</sup>2段構えにするというのは、<sup>ぜんたいかい</sup>全体会が<sup>けいがいか</sup>形骸化している。ある  
いは、<sup>し</sup>そこできちんと<sup>わたし</sup>市のほうも、<sup>どりよく</sup>私たちも<sup>かん</sup>努力しなきゃいけないんじゃないかなという<sup>かん</sup>感じがしま  
す。

でも、それが<sup>たぶんせいろん</sup>多分正論だと思<sup>おも</sup>います。それが<sup>ねんかん</sup>なかなかという<sup>きのうてき</sup>ことであれば、<sup>ねんかん</sup>1年間やってみて、<sup>きのうてき</sup>機能的  
に<sup>うご</sup>動かしていく、その<sup>うご</sup>動かし方を<sup>かた</sup>研究<sup>けんきゅう</sup>してみると。おっしゃっているのは<sup>ただ</sup>正しいんですよ。

【委員】 <sup>いいん</sup>最初、<sup>さいしょ</sup>ちっちゃな<sup>ぶかい</sup>部会をつくっていたときも、<sup>いいん</sup>いろんな<sup>ぶかい</sup>アイデアがあっただですよ。その  
アイデアの中で<sup>なか</sup>どれを<sup>さいゆうせんかだい</sup>最優先課題にするかというところで、<sup>にんすうてき</sup>やっぱり<sup>せいしん</sup>人数的に<sup>ひと</sup>精神の<sup>しょうがい</sup>しょうがいの人  
は<sup>すく</sup>少ないから、<sup>けっきょく</sup>結局、<sup>しんたい</sup>身体<sup>かた</sup>しょうがい<sup>あん</sup>いしゃの方の<sup>ゆうせんてき</sup>案が<sup>かたがた</sup>優先的<sup>べんり</sup>になって、<sup>ちてき</sup>その方々が<sup>べんり</sup>便利なもの、<sup>ちてき</sup>知的  
の方が<sup>かた</sup>便利なもの、<sup>せいしん</sup>精神の方は<sup>かた</sup>そんなに<sup>りよう</sup>利用<sup>りよう</sup>しないかもしれないけれども、<sup>かた</sup>こう<sup>はい</sup>いうこと<sup>ひょう</sup>でとい<sup>かん</sup>って  
まとめて<sup>あん</sup>いった<sup>けっきょく</sup>案も、<sup>じむきょく</sup>結局、<sup>しんたい</sup>事務局は<sup>かた</sup>身体<sup>かた</sup>しょうがい<sup>はい</sup>いしゃの方が<sup>ひょう</sup>入る、<sup>かん</sup>この表<sup>とうじしゃ</sup>に関して、<sup>とうじしゃ</sup>当事者  
と<sup>しゅきょう</sup>社協<sup>いまい</sup>さんが<sup>いまい</sup>ここには<sup>しゅかい</sup>今<sup>はい</sup>入っていますけれども、<sup>けっきょく</sup>その<sup>けっきょく</sup>初回<sup>けっきょく</sup>のところ<sup>けっきょく</sup>で入<sup>けっきょく</sup>って  
なければ、<sup>けっきょく</sup>結局、<sup>けっきょく</sup>ス  
タートに<sup>さんか</sup>参加<sup>ひと</sup>した人たちの<sup>いしき</sup>意識<sup>けっそくりよく</sup>というのは<sup>たか</sup>結束<sup>はい</sup>力は<sup>はい</sup>高まる<sup>はい</sup>かもしれないし、<sup>はい</sup>そこ<sup>はい</sup>に入れ<sup>はい</sup>なかつた  
と  
いうこと<sup>たい</sup>に対して、<sup>おも</sup>どうして<sup>ぜんかい</sup>なのかと<sup>きよねん</sup>やっぱり<sup>うちあわ</sup>思うし、<sup>あつ</sup>前回、<sup>あつ</sup>去年の<sup>あつ</sup>ときも<sup>あつ</sup>打合せ<sup>あつ</sup>で<sup>あつ</sup>集ま<sup>あつ</sup>っている  
ん  
ですと<sup>かた</sup>ほか<sup>うかが</sup>の方<sup>なん</sup>から<sup>とうじしゃ</sup>伺<sup>かぞく</sup>って、<sup>はい</sup>何<sup>おも</sup>で<sup>おも</sup>当事者<sup>おも</sup>・<sup>おも</sup>家族<sup>おも</sup>は<sup>おも</sup>入れ<sup>おも</sup>ないのか<sup>おも</sup>かと思<sup>おも</sup>ったん<sup>おも</sup>ですけれども、<sup>けっきょく</sup>結局<sup>けっきょく</sup>こう

いうのをつくっていたんだと思うんですけども、結局バスのサービスに関しても、電車のサービス  
にも、精神しょうがいしゃの人は全然サポートが少ないんですよ。かなり少ないですよ。でも、  
それは何でそうなんですかと聞くと、最後にその団体ができたから、それで全部片づけられちゃうん  
ですよ。

精神しょうがいしゃの人は、働けるときは働ける、働けないときは働けないですよ。その人  
たちの意見を、ずっと泣きながら我慢している、それじゃおかしいと言って、私は無料でもいいです  
から、アイデアだけ出したいから自立支援協議会で、全体会でお金をもらわないで、アイデアだけ出  
しますから無料で参加しますと言って、入ってアイデアを出しているんですよ。出して、運営委員に  
なりました、高い目標を持ってやったけれども、結局、事務局に精神しょうがいしゃの人を1人も  
入れていないじゃないですか。

結局、そちら側の意見で全部流そうとしているのか、本当に不信感が出ちゃうんですよ。そちらの  
事業者さん同士の悩みは事業者さん同士しか分からないかもしれないけれども、でも、精神しょうが  
いしゃの人、誰も事業者の人、私たちの代わりに言ってくれないんですもん。団体がまだ浅いし、若  
いし、権限もないし、それでこの中にも入れないというのは、私が今までアイデアを出して参考にし  
てくれたことは全部無駄だったんですかという、何かちょっと裏切られた気分があるんですよ。

議事運営が時間がかかるからですか、私が質問するから。それだったら前もって、こういうことで  
こういう流れになっていますと、1回私と会って説明してくれていれば、私はそんな無駄な質問を  
しないし、言わないと思うんですよ。私はどうしても、自立支援協議会の中でも、かなりサポートラ

イン・くにだちさんのほうに事務局が行っていて、予算が行っていて、アイデアを提供してきましたけれども、精神しょうがいしゃのためになることって本当に上がっていますかというぐらいに意見はもらえませんでした。どうですか。

【会長】 さて、どうしましょうか。

【委員】 それで、当事者・家族の意見を、アイデアだけ全部抽出しました、あなたたちは要りませんと言われているのと同じ感じなんですよ。勝手にこういう骨子を全部つくられて。他の事業者さんの中でも、私を入れたほうがいいと思いますって言ってくれていた人は、今回ここにいません。この会議にいませんよ。そこでもちょっと不信感が出ちゃうんです。どうですか。

【会長】 これは、いずれにしても考えてくださって、その見通しも幾つか立てながら考えてくれただんと思うんですね。

【委員】 でも、ここに実際に入っていないのに、入っているかのように見せかけているところが、いらっときます、私。

【会長】 そうですよ。それで何かいい案がないかなと思うんですけれども、この全体会を年に1回この時期にやるというだけじゃなくて……。

【委員】 私はお金をもらわないで、ちゃんと、くらし部会、おしごと部会とか、そういう部会のほうでアイデアを出すから無料でも参加していたんですよ。こんなに体の波があるのにもかかわらず、ここに参加してきたんですよ。その場所なんですよ、ここは。私が言っているのは全体会じゃなくて、地域課題協議部会、変わり始めていますけれどもし、おしごと部会とか、くらし部会とか、そっち

がわ ぶかい ひと なまえ そうしょう か か うえ どうじしゃ かぞく しゃぎょう  
側の部会の人たちの名前が総称して変わるわけですよ。変わった上に、この当事者・家族と社協さ

んが外れていて、市と事業所だけで始めるってかなり、今までアイデアを提供してなし得てきたこ

と、事務局を立ち上げてやっていただけでも、結局、それをお金になるからと私がアイデアを

出したのに、それのお金になる方法もちゃんと伝えましたよ。でも、いつの間にか別の企業の大きい

会社かなんか分からないけれども、そこにデータを提供してお金にしているのかちょっと分からな

いんですけれども、それにつながっていないのかもしれないんですけれども……。

【会長】 ほかの方の意見もあるので、聞いてみたいと思います。

【委員】 ありがとうございます。一緒にやっていた当事者部会の前集い部会でやっていたとき

に、いろいろ参加いただいて、結構やっていたのでやってきました。そのときには、飲食店とか、ア

ンケートを出して、何件か載せてもいいという情報を今、観光まちづくり協会、あれはお金をもら

っているんじゃないかと、結果的にはうちが、その観光まちづくり協会とつながって、お店を増やして

いきましょうということだんだん進んではいるんですが、そういう資料を入れて、写真があって…

…。

【委員】 塩漬けになっているんですよ。

【委員】 集い部会でやったことをどこでつないでいくかというときに、具体的にやるのをうちが

やりませんかということでお話をいただいてやっています。

それは、こちらがまちづくり観光協会に会費というか、詳しくは名目は忘れちゃったけれども、お金

を払ってやっています。やってもらっているんですね。これを今変えようとしています。そのまま

はできないということで、<sup>じじょう</sup>事情を詳しく<sup>くわ</sup>ここでは<sup>せつめい</sup>説明できませんが、<sup>ちが</sup>違う<sup>かたち</sup>形になって、<sup>あた</sup>新しい<sup>じじょうほう</sup>情報  
を<sup>の</sup>どういうふう<sup>の</sup>に載せていこうかということになっています。

【委員】 <sup>い</sup>しょうがい<sup>い</sup>しゃの<sup>だんたい</sup>団体が、<sup>い</sup>しょうがい<sup>い</sup>しゃの<sup>かいしゃ</sup>会社がそれを<sup>か</sup>アプリ化して<sup>ゆうりよう</sup>有料事業に<sup>ど</sup>んど  
<sup>か</sup>ん変えて<sup>い</sup>っているんですよ。だから、<sup>う</sup>そこに<sup>こ</sup>売り込むなり、<sup>くに</sup>とにかく<sup>た</sup>国立市にお金になることをと  
<sup>わ</sup>たし<sup>てい</sup>あんは<sup>よう</sup>提案したんです。それ用の<sup>じじょうほう</sup>アプリの<sup>じじょうほう</sup>情報、その<sup>はい</sup>情報が入れば……。<sup>かね</sup>お金になること  
<sup>わる</sup>が悪いことだと<sup>わ</sup>たし<sup>ぜっ</sup>たい<sup>おも</sup>私は絶対に<sup>きようぎ</sup>思っていないんですよ。この<sup>う</sup>協議会から<sup>う</sup>生まれた<sup>う</sup>アイデアで、ちゃんと  
<sup>じぶん</sup>自分たちで<sup>かね</sup>お金を<sup>あつ</sup>集められて、それを<sup>しょうがい</sup>障害者の<sup>ほうあん</sup>法案とか、<sup>こま</sup>困る<sup>ひと</sup>人に……。

【委員】 <sup>い</sup>委員が<sup>い</sup>おっしゃっていることはよく<sup>わ</sup>わかりますし……。

【委員】 <sup>い</sup>すみません、<sup>あつ</sup>熱くなっちゃって。すごい<sup>くろう</sup>苦労したんです。1年間、<sup>ねんかん</sup>いろいろな<sup>みせ</sup>お店に<sup>あたま</sup>頭を<sup>さ</sup>下  
げて。

【委員】 <sup>い</sup>おっしゃっていることは<sup>わ</sup>分かりました。先ほど<sup>さき</sup>ちょっと<sup>い</sup>言いましたけれども、<sup>こんかい</sup>今回の<sup>せんたく</sup>選択、  
<sup>じむきょく</sup>事務局さんたちが<sup>みな</sup>皆さん<sup>え</sup>コンセンサスを<sup>え</sup>得られているとすれば、<sup>みな</sup>皆さん<sup>すす</sup>進めたいけれども、<sup>ちよ</sup>ちょっと  
<sup>ていたい</sup>停滞し<sup>おそ</sup>ちゃった<sup>ながねん</sup>ねというところが、<sup>おも</sup>恐らく<sup>お</sup>長年<sup>わたし</sup>やっていて<sup>お</sup>あったん<sup>わたし</sup>じゃないかと思う<sup>わたし</sup>んですね。私も  
<sup>み</sup>つぶさに見ているわけ<sup>わ</sup>じゃないから<sup>わ</sup>分からない<sup>わ</sup>んですけれども、でも、<sup>じじょう</sup>それぞれの<sup>しや</sup>事業者さん、<sup>もち</sup>もち  
<sup>し</sup>ろん市も<sup>ふく</sup>含めて<sup>なん</sup>何とか<sup>すす</sup>進めて<sup>い</sup>きたいという<sup>いこう</sup>意向の<sup>あらわ</sup>表れ<sup>わたし</sup>なのかなと<sup>おも</sup>私は<sup>わたし</sup>思ったんです。

<sup>わたし</sup>おっしゃるとおり、<sup>おな</sup>私も<sup>ぎもん</sup>さっき<sup>かん</sup>同じ<sup>おな</sup>疑問<sup>しつもん</sup>を感じたんです。同じ<sup>おな</sup>質問<sup>しつもん</sup>したかっただんですけれども、<sup>や</sup>や  
<sup>すす</sup>っぱり<sup>すす</sup>どうしても、<sup>す</sup>さっき<sup>すす</sup>コントロールと<sup>すす</sup>おっしゃって<sup>すす</sup>いましたけれども、<sup>すす</sup>まとまりを、<sup>すす</sup>やっぱり<sup>すす</sup>進  
<sup>すこ</sup>めていくために、<sup>ゆうせん</sup>少し<sup>お</sup>まとまりを<sup>お</sup>優先<sup>せんたく</sup>している<sup>お</sup>んだと思う<sup>お</sup>んです。それは、<sup>お</sup>あえて<sup>せんたく</sup>選択<sup>せんたく</sup>したのかなと

わたし りかい  
私は理解しました。ですから……。

いいん  
【委員】 まとまりって、結局、事業者同士のまとまりって何ですかね。

いいん  
【委員】 それは事業者さん……。

いいん  
【委員】 お金になるアイデアも、競争入札させて、私たちの団体がやりますよ、そこまで利益にならなかつたら、ビッグデータとしてどここの会社に提供しましょうとか、もっと前向きな話ができるはずなんです。それを勝手に1団体に指名してやってしまう時点で癒着感の何物でもないんですよ。そういうことの反省もなく、自分たちの中だけでアイデアを固めていこうと。だって、そこで事業者も勝手に策定できるわけじゃないですか。

いいん  
【委員】 多分ここで今お話ししているのは、個別の恐らくお話、思いもあると思うんです。もちろん社協だって、先ほどサプラ、サプラというのは社協の相談支援事業所なんですけれども、サプラというところに、社協のエッセンスはありますけれども、社協本体とまたちょっと立場も違うので、私たちもいろいろと思いはあるんですね。

ただ、やはりここで決めるべきは、思いはよく分かったんですけども、ちょっとそのシステムを1回ここで全体会として決めておいたほうがいいんです。ほかの委員も含めて、こういう形で来年度いきましょうということで、あと30分になっているので。個別のところはこれからまた議論していくという形ではいかがでしょうか。

あとは、先ほど会長がおっしゃったように、全体会の在り方とか、これを変えるに伴って多分調整が必要だと思うんです。そのところを委員さんの御意見は何かありますか。全体会がこうなったらいい

いとか、<sup>ぎゃく</sup>逆にそういうところが、<sup>てき</sup>システムの<sup>わたし</sup>に<sup>こいけん</sup>ちょっと<sup>うかが</sup>私は<sup>おも</sup>御意見を伺いたいと思うんですけれども。

【委員】<sup>いいん</sup>いや、<sup>だ</sup>アイデアを出すところが<sup>いちばんだいじ</sup>やっぱり一番大事なんですよ。だって、<sup>ぜんたいかい</sup>全体会<sup>く</sup>に来る人<sup>ひと</sup>たちはみんな<sup>ゆうふく</sup>裕福な<sup>ひと</sup>人<sup>こ</sup>たちばかりしか来ないから、<sup>ほんとう</sup>本当に<sup>まず</sup>貧しい<sup>ひと</sup>人<sup>じっしつせいかつ</sup>とか、<sup>くる</sup>実質生活して<sup>ひと</sup>苦しんでる<sup>ひと</sup>人<sup>も</sup>たち、<sup>も</sup>しょうかいを持って<sup>くる</sup>苦しんでいる<sup>とうじしゃ</sup>当事者<sup>かた</sup>の方<sup>ぜんぜん</sup>とか、<sup>ぜんぜん</sup>全然スルーで、<sup>ぜんぜん</sup>チェック<sup>ぜんぜん</sup>されていないわけですよ。

【会長】<sup>かいちょう</sup>そうすると<sup>いま</sup>今までの<sup>ぶかい</sup>4部会<sup>きのう</sup>は機能していたということですか。

【委員】<sup>いいん</sup>私の<sup>わたし</sup>理想<sup>りそう</sup>からしたら<sup>そうとうひく</sup>相当低<sup>もう</sup>いですが、<sup>わけ</sup>申し訳ないけれども、<sup>もう</sup>それにしても<sup>わけ</sup>アイデアは出<sup>で</sup>ていた<sup>おも</sup>ほうだ<sup>おも</sup>と思うんです。でも、<sup>で</sup>その<sup>で</sup>アイデア<sup>じぎょうしょ</sup>が出るところを、<sup>し</sup>事業所<sup>し</sup>と<sup>がっち</sup>市の<sup>がっち</sup>ところで<sup>がっち</sup>合致<sup>がっち</sup>しまし<sup>がっち</sup>ょう、<sup>さいしょ</sup>最初<sup>さいしょ</sup>ですから<sup>けっきょくなか</sup>なんて<sup>けっきょくなか</sup>やっちゃ<sup>はばつ</sup>っていたら、<sup>はばつ</sup>結局<sup>はばつ</sup>仲よく<sup>はばつ</sup>はなるけれども、<sup>はばつ</sup>どう<sup>はばつ</sup>いった<sup>はばつ</sup>派閥<sup>はばつ</sup>で<sup>はばつ</sup>どう<sup>はばつ</sup>いった<sup>はばつ</sup>流れ<sup>はばつ</sup>で<sup>はばつ</sup>やり<sup>はばつ</sup>ますか<sup>はばつ</sup>と<sup>はばつ</sup>裏<sup>はばつ</sup>の<sup>はばつ</sup>ルール<sup>はばつ</sup>が<sup>はばつ</sup>決<sup>はばつ</sup>ま<sup>はばつ</sup>って<sup>はばつ</sup>い<sup>はばつ</sup>く<sup>はばつ</sup>だ<sup>はばつ</sup>け<sup>はばつ</sup>で、<sup>はばつ</sup>全<sup>はばつ</sup>く<sup>はばつ</sup>真<sup>はばつ</sup>っ<sup>はばつ</sup>す<sup>はばつ</sup>ぐ<sup>はばつ</sup>と<sup>はばつ</sup>し<sup>はばつ</sup>た<sup>はばつ</sup>アイ<sup>はばつ</sup>デア<sup>はばつ</sup>が<sup>はばつ</sup>出<sup>はばつ</sup>て<sup>はばつ</sup>こ<sup>はばつ</sup>な<sup>はばつ</sup>く<sup>はばつ</sup>な<sup>はばつ</sup>っ<sup>はばつ</sup>ち<sup>はばつ</sup>ャ<sup>はばつ</sup>う。

【委員】<sup>いいん</sup>多分、<sup>たぶん</sup>アイデア<sup>だ</sup>を出すのは<sup>だ</sup>ワーキング<sup>だ</sup>グループ<sup>だ</sup>の<sup>だ</sup>ほう<sup>だ</sup>なん<sup>だ</sup>じゃ<sup>だ</sup>ない<sup>だ</sup>かなと、<sup>だ</sup>ち<sup>だ</sup>よ<sup>だ</sup>っ<sup>だ</sup>と<sup>だ</sup>こ<sup>だ</sup>れ<sup>だ</sup>を<sup>だ</sup>見<sup>だ</sup>て<sup>だ</sup>い<sup>だ</sup>る<sup>だ</sup>感<sup>だ</sup>じ<sup>だ</sup>で<sup>だ</sup>思<sup>だ</sup>う<sup>だ</sup>ん<sup>だ</sup>です<sup>だ</sup>け<sup>だ</sup>れ<sup>だ</sup>ど<sup>だ</sup>も、<sup>だ</sup>そ<sup>だ</sup>う<sup>だ</sup>で<sup>だ</sup>は<sup>だ</sup>な<sup>だ</sup>い<sup>だ</sup>ん<sup>だ</sup>です<sup>だ</sup>か。

【委員】<sup>いいん</sup>これは、<sup>で</sup>アイデア<sup>で</sup>が出<sup>で</sup>て、<sup>で</sup>それを<sup>で</sup>ワーキング<sup>で</sup>グループ<sup>で</sup>で<sup>で</sup>深<sup>で</sup>める<sup>で</sup>ん<sup>で</sup>じ<sup>で</sup>ゃ<sup>で</sup>な<sup>で</sup>い<sup>で</sup>ず<sup>で</sup>か。

【委員】<sup>いいん</sup>多分、<sup>たぶん</sup>これ<sup>たぶん</sup>を<sup>たぶん</sup>見<sup>たぶん</sup>る<sup>たぶん</sup>限<sup>たぶん</sup>り<sup>たぶん</sup>は、<sup>たぶん</sup>課<sup>たぶん</sup>題<sup>たぶん</sup>を<sup>たぶん</sup>全<sup>たぶん</sup>体<sup>たぶん</sup>会<sup>たぶん</sup>な<sup>たぶん</sup>の<sup>たぶん</sup>か、<sup>たぶん</sup>こ<sup>たぶん</sup>の<sup>たぶん</sup>部<sup>たぶん</sup>会<sup>たぶん</sup>な<sup>たぶん</sup>の<sup>たぶん</sup>か<sup>たぶん</sup>は<sup>たぶん</sup>別<sup>たぶん</sup>と<sup>たぶん</sup>し<sup>たぶん</sup>て<sup>たぶん</sup>も、<sup>たぶん</sup>課<sup>たぶん</sup>題<sup>たぶん</sup>を、<sup>たぶん</sup>簡<sup>たぶん</sup>単<sup>たぶん</sup>に<sup>たぶん</sup>言<sup>たぶん</sup>う<sup>たぶん</sup>と、<sup>たぶん</sup>困<sup>たぶん</sup>っ<sup>たぶん</sup>た<sup>たぶん</sup>こ<sup>たぶん</sup>と<sup>たぶん</sup>か<sup>たぶん</sup>で<sup>たぶん</sup>す<sup>たぶん</sup>よ<sup>たぶん</sup>ね。<sup>たぶん</sup>そ<sup>たぶん</sup>れ<sup>たぶん</sup>が<sup>たぶん</sup>出<sup>たぶん</sup>て、<sup>たぶん</sup>アイ<sup>たぶん</sup>デア<sup>たぶん</sup>は<sup>たぶん</sup>多<sup>たぶん</sup>分<sup>たぶん</sup>ワ<sup>たぶん</sup>ー<sup>たぶん</sup>キ<sup>たぶん</sup>ン<sup>たぶん</sup>グ<sup>たぶん</sup>ル<sup>たぶん</sup>ー<sup>たぶん</sup>プ<sup>たぶん</sup>で<sup>たぶん</sup>出<sup>たぶん</sup>す<sup>たぶん</sup>と<sup>たぶん</sup>い<sup>たぶん</sup>う<sup>たぶん</sup>こ<sup>たぶん</sup>は<sup>たぶん</sup>十<sup>たぶん</sup>分<sup>たぶん</sup>、<sup>たぶん</sup>こ<sup>たぶん</sup>れ<sup>たぶん</sup>を<sup>たぶん</sup>見<sup>たぶん</sup>る<sup>たぶん</sup>限<sup>たぶん</sup>り<sup>たぶん</sup>可<sup>たぶん</sup>能<sup>たぶん</sup>な<sup>たぶん</sup>の<sup>たぶん</sup>か<sup>たぶん</sup>な<sup>たぶん</sup>と<sup>たぶん</sup>思<sup>たぶん</sup>う<sup>たぶん</sup>ん<sup>たぶん</sup>です<sup>たぶん</sup>。

【会長】 時間があと25分になって、今回決まらないと、また1年後になってしまうことが国立市

はよくあるんですね。

【委員】 何で私を敬遠するのか分からない。

【委員】 地域課題協議部会と別に、これは事業所で話ではなくてちょっと違う私の意見なんです

けれども、4事業所で話をしたときに入っていたという話が出たんですけれども、1回目から

入っていただいてもいいと私は思っていて、ここで4事業所もいるし、市もいるし、全体会なので、

入っていただきましょうと決まれば、そこはそこでアイデアを上げていただいているということでの

ではないかと思うのですが、ほかの方々、どうでしょうか。

【会長】 御意見ありますよね。議論してきた方たちも、ぜひ前向きな意見をいただけると。

【委員】 今、委員が言っていたところについての、4団体の気持ちというか、姿勢の部分で少

しお話しできるんじゃないかと思っているんですけれども、やっぱり自立支援協議会が他市とも比べ

てどんどん遅れていくことというのは、とても地域の方たちにとって不利益で、今回の案を、いかに

課題を抽出するかというところがみそになっていて、そこを一旦部会にはかけませんけれども、そ

の中に出てきたものを、きちんと今回はともかく私たち4団体が責任を持ってやっていきたいとい

う、さっき責任の話も冒頭のほうでありましたけれども、その気持ちはやっぱり一緒に、ともかくこ

れを早く進めていかないと、それこそ国立市でのまちづくりであったり、ここで暮らす人たちが幸せ

にという、そういうことから遅れているということがもう目に見えてあるので、一旦これで走り出し

をして、いろいろまだまだ詰め切れていないところはあるんですけれども、そこは柔軟だというふう

と  
に取っていただいて、まだまだそういう意見が入る余地があると。

だけれども、これを私たちが進めていくという、今日はそういう気持ちで出席をしているので、  
委員が感じ取ってくださったところは、そのとおりのはずで、皆さんそういう気持ちで今日は参加し  
ています。

【会長】 進行として、時間はやっぱり大事なので、8時には区切ろうと思います。なので、8時ま  
では何らか結論なりは出したいと思います。それも含めてどうぞ。

【委員】 今までに経緯をあまり存じ上げていないので、勝手な意見になってしまうかもしれない  
ですが、委員の御意見を伺っていると、コントロールというのは非常に分かるんです。進めていくた  
めには、ただ、さんざん今までされてきたことだとは思いますが、問題を皆さんで共有する  
場ということで、いろんな諸団体が参加して、まずこういう問題があるんだということを共有がど  
までできているのか。同じ当事者でも、感じ方が違うとかで全然違ったりとかしますし、なので、も  
う1つの方法として絞るという方法と、あとは思いっきり広げるという方法と、両方あるのかなと思  
います。

両方とも、さっきおっしゃったように、前に進めるという方法でやっていくと考えるか、どっち  
になるかというのはこの後の時間で決めることだとは思いますが、そういう方法も考えて  
もいいのかと、お話を伺って思いました。

【会長】 地域課題の会が1つあった上で、でも、部会で機能しているものがあれば、同時並行でそ  
れを入れてもいいのかなと私は思ったんですが、これに絞らないで。

ただ、まずは、まだワーキングをどういうふうにしようかとか、動き自体をやってみないと詰め切れ  
れないところがありますよね。システムをつくるという意味では動いていただいたほうがいいと思  
うんです。議長にならせていただいて3年か4年ぐらいやっていますけれども、ずっとこの議論を続け  
ている気がするんですね。どういうやり方でやろうかやろうかということで、むしろ少し動きながら  
具体的に<sup>ぐ</sup>なっていくものを<sup>かんが</sup>えていくのが、今はもう<sup>いま</sup>国立市としては<sup>もと</sup>求められているのかなと思  
います。

私の<sup>わたし</sup>提案<sup>ていあん</sup>としては、おっしゃって<sup>うご</sup>いただいた<sup>うご</sup>みたい、どのぐらいのペースで動くかどうかなん  
ですけども、この<sup>ぜんたいかい</sup>全体会が<sup>ねんご</sup>1年後<sup>い</sup>ですと言われるよりは、<sup>ねん</sup>年に<sup>かい</sup>2回<sup>すく</sup>ぐらひは<sup>ひら</sup>少なくとも開いて<sup>うご</sup>いた  
いて、<sup>ちいきかだい</sup>地域課題<sup>なか</sup>の中で<sup>かだい</sup>どうい<sup>しほ</sup>う課題<sup>うご</sup>が絞<sup>じょうきょう</sup>られましたよと、動いて<sup>うご</sup>みたら<sup>じょうきょう</sup>こんな状  
況<sup>うかが</sup>ですということ  
を、<sup>ぜんたいかい</sup>全体会<sup>あき</sup>を<sup>かいひら</sup>秋<sup>しんちやくじょうきょう</sup>ぐらひに<sup>うかが</sup>1回<sup>うかが</sup>開いて<sup>うかが</sup>いただ  
いて、<sup>かんが</sup>考<sup>ぜんたいかい</sup>えて<sup>ちいきかだい</sup>いく<sup>ゆうきてき</sup>という、<sup>れんけい</sup>全体会<sup>いしきてき</sup>と<sup>いしきてき</sup>地域課題<sup>いしきてき</sup>を<sup>いしきてき</sup>有<sup>いしきてき</sup>機<sup>いしきてき</sup>的<sup>いしきてき</sup>に<sup>いしきてき</sup>連<sup>いしきてき</sup>携<sup>いしきてき</sup>さ<sup>いしきてき</sup>せる<sup>いしきてき</sup>こと<sup>いしきてき</sup>を<sup>いしきてき</sup>意<sup>いしきてき</sup>識<sup>いしきてき</sup>的<sup>いしきてき</sup>に<sup>いしきてき</sup>や<sup>いしきてき</sup>っ  
て<sup>いしきてき</sup>いた<sup>いしきてき</sup>だ<sup>いしきてき</sup>く<sup>いしきてき</sup>と、<sup>いしきてき</sup>ま<sup>いしきてき</sup>ず  
は<sup>いしきてき</sup>い<sup>いしきてき</sup>い<sup>いしきてき</sup>ん<sup>いしきてき</sup>じ<sup>いしきてき</sup>ゃ<sup>いしきてき</sup>な<sup>いしきてき</sup>い<sup>いしきてき</sup>か<sup>いしきてき</sup>と<sup>いしきてき</sup>思<sup>いしきてき</sup>い<sup>いしきてき</sup>ま<sup>いしきてき</sup>す。

そこで<sup>き</sup>聞<sup>き</sup>いて<sup>き</sup>み<sup>き</sup>て、<sup>き</sup>それ<sup>き</sup>でも<sup>き</sup>や<sup>き</sup>っ<sup>き</sup>ぱ<sup>き</sup>り<sup>き</sup>足<sup>き</sup>り<sup>き</sup>な<sup>き</sup>い<sup>き</sup>よ<sup>き</sup>ね<sup>き</sup>と<sup>き</sup>い<sup>き</sup>う<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>と<sup>き</sup>あ<sup>き</sup>れ<sup>き</sup>ば、<sup>き</sup>そ<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>で<sup>き</sup>柔<sup>き</sup>軟<sup>き</sup>に<sup>き</sup>や<sup>き</sup>っ  
て<sup>き</sup>い<sup>き</sup>く<sup>き</sup>。<sup>き</sup>それ<sup>き</sup>は<sup>き</sup>1<sup>き</sup>年<sup>き</sup>後<sup>き</sup>と<sup>き</sup>い<sup>き</sup>う<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>と<sup>き</sup>も<sup>き</sup>あ<sup>き</sup>る<sup>き</sup>か<sup>き</sup>も<sup>き</sup>し<sup>き</sup>れ<sup>き</sup>な<sup>き</sup>い<sup>き</sup>け<sup>き</sup>れ<sup>き</sup>ど<sup>き</sup>も、<sup>き</sup>1<sup>き</sup>年<sup>き</sup>後<sup>き</sup>と<sup>き</sup>い<sup>き</sup>う<sup>き</sup>と、<sup>き</sup>ま<sup>き</sup>た<sup>き</sup>1<sup>き</sup>年<sup>き</sup>後<sup>き</sup>、<sup>き</sup>長<sup>き</sup>く<sup>き</sup>な<sup>き</sup>っ  
て<sup>き</sup>し<sup>き</sup>ま<sup>き</sup>う<sup>き</sup>の<sup>き</sup>で、<sup>き</sup>も<sup>き</sup>う<sup>き</sup>ち<sup>き</sup>ょ<sup>き</sup>っ<sup>き</sup>と<sup>き</sup>ハ<sup>き</sup>イ<sup>き</sup>ペ<sup>き</sup>ー<sup>き</sup>ス<sup>き</sup>で、<sup>き</sup>課<sup>き</sup>題<sup>き</sup>を<sup>き</sup>ま<sup>き</sup>と<sup>き</sup>め<sup>き</sup>て<sup>き</sup>み<sup>き</sup>た<sup>き</sup>ら<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>う<sup>き</sup>い<sup>き</sup>う<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>と<sup>き</sup>が<sup>き</sup>出<sup>き</sup>ま<sup>き</sup>し<sup>き</sup>た<sup>き</sup>と<sup>き</sup>い<sup>き</sup>う<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>  
と<sup>き</sup>を<sup>き</sup>聞<sup>き</sup>か<sup>き</sup>せ<sup>き</sup>て<sup>き</sup>い<sup>き</sup>た<sup>き</sup>だ<sup>き</sup>く<sup>き</sup>だ<sup>き</sup>け<sup>き</sup>で<sup>き</sup>も、<sup>き</sup>多<sup>き</sup>分<sup>き</sup>課<sup>き</sup>題<sup>き</sup>共<sup>き</sup>有<sup>き</sup>は<sup>き</sup>で<sup>き</sup>き<sup>き</sup>る<sup>き</sup>と<sup>き</sup>思<sup>き</sup>う<sup>き</sup>の<sup>き</sup>で。

なので、<sup>あん</sup>案<sup>ぜんはん</sup>は<sup>こうはん</sup>これ<sup>しゅうせい</sup>で<sup>しゅうせい</sup>ま<sup>しゅうせい</sup>ず<sup>しゅうせい</sup>前<sup>しゅうせい</sup>半<sup>しゅうせい</sup>や<sup>しゅうせい</sup>っ<sup>しゅうせい</sup>て、<sup>しゅうせい</sup>後<sup>しゅうせい</sup>半<sup>しゅうせい</sup>で<sup>しゅうせい</sup>修<sup>しゅうせい</sup>正<sup>しゅうせい</sup>の<sup>しゅうせい</sup>も<sup>しゅうせい</sup>の<sup>しゅうせい</sup>が<sup>しゅうせい</sup>あ<sup>しゅうせい</sup>れ<sup>しゅうせい</sup>ば、<sup>しゅうせい</sup>ま<sup>しゅうせい</sup>た<sup>しゅうせい</sup>当<sup>しゅうせい</sup>事<sup>しゅうせい</sup>者<sup>しゅうせい</sup>と<sup>しゅうせい</sup>か<sup>しゅうせい</sup>社<sup>しゅうせい</sup>協<sup>しゅうせい</sup>が<sup>しゅうせい</sup>ど<sup>しゅうせい</sup>ん<sup>しゅうせい</sup>な  
<sup>かか</sup>ふう<sup>こうはんぎろん</sup>に<sup>かか</sup>関<sup>こうはんぎろん</sup>わ<sup>かか</sup>る<sup>かか</sup>か<sup>かか</sup>と<sup>かか</sup>い<sup>かか</sup>う<sup>かか</sup>の<sup>かか</sup>を、<sup>かか</sup>後<sup>こうはんぎろん</sup>半<sup>こうはんぎろん</sup>議<sup>こうはんぎろん</sup>論<sup>こうはんぎろん</sup>し<sup>こうはんぎろん</sup>て<sup>こうはんぎろん</sup>い<sup>こうはんぎろん</sup>く<sup>こうはんぎろん</sup>の<sup>こうはんぎろん</sup>で<sup>こうはんぎろん</sup>い<sup>こうはんぎろん</sup>か<sup>こうはんぎろん</sup>が<sup>こうはんぎろん</sup>で<sup>こうはんぎろん</sup>し<sup>こうはんぎろん</sup>ょう<sup>こうはんぎろん</sup>か。

【委員】 ずっと聞いていて思ったんですけども、地域課題協議部会を参加する形はどうかということ、皆さんどうですかと聞きながら、でも、ほかの方々もそういう気持ちを持つ方もいるんじゃないかというときにちょっと思ったんですが、この形で始めたい、相談支援事業所は10ぐらいあるので、いろいろな当事者の困っていることを聞いている立場なので、そこで始めたいということはそうなんです、委員さんやそのほか参加するワーキンググループ、いろんなアイデアを出す地域のこ

とについて、そのワーキングをもうつくりませんか。

今、私たちはまだワーキンググループのアイデアは全然ないんですけども、第1回の地域課題協議部会をやりながら協議して、ワーキンググループを何かというと、そうするとちょっとワーキンググループのスタートが遅くなると思うんですね。でも、今、例えば部会という小さな形でアイデアを出してきた、その機会がなくなっちゃうじゃないかと、今現にそういう気持ちを持っている委員がいて、ほかにもきついたらしゃるならば、そのワーキングをつくるということでスタートしたらどうかなと思いました。

あと、全体会を秋ぐらいにまたやることを目標に、協議部会をやっていけたらと思います。

【会長】 そういうことなんですよ。ここ自体が課題協議部会があるべきなんですね。だから、それまでに事務局なり、市が準備をした上で、ここでワーキングの幾つかが立てられるぐらいのアイデアを提案してというのが、自立支援協議会の全体会の役割のはずなんですね。2段階になってしまいますけれども、動き出すということで、また後でその融合はできると思いますので。

ただ、そこだけは、この全体会の意味というのをきちんと位置づけることは宿題にしていきたいと

おも けいがいか ぎしきてき かい かいけん  
思います。形骸化した儀式的な会ではないですので。よろしいでしょうか。御意見はありますか。

いまかた あん なん げつ うご がつ かいひら  
今固まっているのは、まずは、この案で何か月か動いていただく。それが、6月に1回開かれて、  
かい かい うえ あき かだい ちゅうしゅつ  
1回か2回やった上での秋ぐらいにはその課題を抽出ということ。つまりはワーキングですかね。

いいん かいめ じぎょうしょ し かだい きょうぎ かい かいめ いま しゃきょう  
【委員】 1回目は事業所と市で課題を協議する会をつくって、2回目からは今までどおり社協さん  
とうじしゃぶかい ひと かぞく はい  
や当事者部会の人たち、家族が入れるということですね。

かいちょう かたち き なか はい  
【会長】 それをどういう形にするかはそのときに決めませんか。ワーキングの中に入っていくか  
ちいきかだい なか はい かいぎろん  
もしれないし、地域課題の中に入るのかもしれないけれども、それはちょっと1回議論していつて、  
なか とうじしゃ かた しゃきょう かた  
どうもよさそうだということになれば、ワーキングの中に当事者の方や社協の方とか……。

いいん たと ちいきかだい ひ おぼ なまえてき  
【委員】 どうしても例えばこの地域課題というところに引っかかりを覚えるのであれば、名前的に  
はこれじゃなきゃいけないということないんですよ。

いいん けっきよく いちばんおお よさん とうじしゃ かぞく はい  
【委員】 結局、一番多い予算にしがらみのない当事者・家族が入らないということは、アイデアを  
よさん かんけい とうじしゃ かぞく  
つくることによって、予算は関係ないんですよ。当事者や家族は。

いいん いげん で  
【委員】 いろいろ意見が出やすいですよ。

いいん じゅう いげん だ じぎょうしゃ し かんけいしゃ  
【委員】 そうです。いろんな自由な意見が出せるんですよ。でも、それを事業者さんと市の関係者  
じゅう いげん ぜったいで じぶん ふりえき こうむ  
だけでまとめちゃったら、自由な意見は絶対出てこないですよ。だって、自分たちの不利益を被るこ  
だれ むりょう かいぎ き  
とに誰が無料で会議に来て……。

いいん たぶん つぎ い い う あ  
【委員】 多分、次のそのステップに行くための、ロケットで言えば、ちょっとまず打ち上げて、も  
かいう あ なお い かた か  
う1回打ち上げ直しましょうということなのかなと、さっきのちょっと言い方を変えると。

【委員】 そうならば、それにこしたことはないんですけども、結局、より格下げ、全体会があったら、地域課題協議部会があって、そしてワーキンググループになっちゃうことになるので、そうするとワーキンググループはより格下げになっていっちゃうので、本当にアイデアを売ってくれますかという不安はないですよ。前回の前例があるのでね。

【委員】 社協としても、私たちもこれを聞いたばかりですからおっしゃることは分かるんですけども、ちょっと一歩進む、さっき会長がおっしゃるように、一歩ちょっと進んでやってみて、それこそ課題も出てくるかもしれないですし、委員と一緒に社協も考えますから、ちょっと一度預けてみてはどうかと、私は中立の立場からそう思いました。いかがでしょうか。まずはこの場はということで。

【事務局】 ありがとうございます。ワーキンググループ、先ほどのお話もございましたので、実際のいろんなアイデアとかというところは、ワーキンググループのところでいろんな方に入ってもらってぜひやっていきたいと思います。多分そこは事務局サイドでも考えは同じなのかなと思います。ワーキングでも何か狭めるつもりは一切ありませんので、そこはそこでテーマをうまく区切ってしかり、今までの部会のようなイメージにちょっと近いのかもしれないですけども、しっかり議論しているような人が集まって、まさに当事者・家族も集まってもらってやりたいなと思います。

【会長】 ぜひ整理していきましょう。まず、委員さんたちの意見を言うと、私からすると、地域課題協議会Aは、事業者の方たちが今考えたとおりにやっただいて、地域課題協議会Bは、当事者の方たちも入って、みんなが地域課題を出していけばいいんだと。ワーキングをつくって、権利があ

るといふに。まず、時間的にはちょっとずれて、Aのほうは先に6月にやっていただいて、Bの

当時者会の方たちの課題抽出については、8月ぐらいからやってみるとか、ただ同時に並列である

ということをご想定して動くというのはとても大事だと思うんです。

おっしゃるように、相談支援事業所だけが地域課題を抽出するだけではなくて、もう1つ

抽出する部会なりがあってもいい。この協議会がA、B、Cぐらいまであって、それぞれにちょっ

とまとまった意見を出していくと。まずは先行して、私の中でのAというか、自立相談支援の人たち

の課題抽出を先にやってもらって、どうか。どんなやり方がよかったですか、ちょっとそのやり

方がよかったみたいなので、当事者も入った、社協も入った地域課題抽出協議会をまた秋ぐらい

にやりましょうと、そのぐらいにAとBがあると、それは考えていただいて。

まずは、だから今の案でやっていただいて、これが1年間のフィックスじゃなくて、どうしても報告

をしたり、そのやり方自体を柔軟に考え、修正できるような機会を年間の途中ぐらいで持っていた

だののいいんじゃないかなと。ちょっと計画していただければと思います。

どうでしょうか。思いはたくさん話していただいたほうがいいのと、あと10分でほかの、もう一つ

の第2のテーマもあることはあるんですけども、それはもう報告だと思しますので、この①の案に

ついては、今のような先行でまずやる。途中でもう少し柔軟に対応、修正が必要なことも含

めて考えていただくということを宿題にさせていただいて、始めてみましょうと思います。

今まで議論してきた方たちの思いがいっぱいあると思います。それも全て実現していただければと

おもいます。

あと10分しかないんですけども、2つ目の紹介も事務局からしていただきたいと思ひます。

【事務局】 それでは、議題の②です。残り時間が僅かなので、説明は後でお答えいただくことも可能

なので、説明をさせていただきます。資料の④⑤⑥に当たります。

第1の議題の冒頭で、施策推進協議会、通称推進協と言っていますが、推進協の話が自立支援協

議会とは別にありますということがありましたけれども、推進協は計画を策定するために、市から諮問

を受けて計画策定をする役割があるということは先ほど御説明したかと思ひます。今、私たちが入り

ます推進協でつくっている計画というのが……。

計画自体は資料④、第3次国立市しょうがいしゃ計画骨子案です。このような骨子での内容が書か

れますということです。

資料⑤につきましては、第7期国立市しょうがい福祉計画・第3期国立市しょうがい児福祉計画と

いうことで、これは何年後にこのような数値目標を立てますよという、どちらかという施策という

よりは数値目標です。

資料⑥に、これを見ていただいた上で、御自身たちが日頃のこういうしょうがい福祉のサービスで

すとか、しょうがいしゃとして生活されている中で、こういう計画の中にこういうようなことをぜひ

加えていただきたいといった御意見、ふだん生活している中でこういうことに結構困っているんです

とかということ、具体的に計画の中に入れる文章は考えなくていいので、ふだんの中でこういう、

例えば相談を受けている方でしたらこういう相談を結構受けているんだけどとか、きれいな文章

でなくてもいいので、日頃御自身がいろいろな形で感じている困り事等を、資料⑥に書いていただい

ごていしゅつ すいしんきょう こいけん かたち ごていじ  
御提出いただければ、推進協のほうにこういう御意見がありましたという形で御提示することがで  
きますので、御協力いただければと思います。

じむきょく じぜん わた いけん しつもんひょう きょう ば  
【事務局】 事前にお渡しさせていただいているご意見・ご質問票なんですけれども、今日この場で  
なくても大丈夫なので、また御意見等がまとまって、御意見があるという場合には、この回が終わっ  
て、また明日以降でもいいので、御意見を市役所のほうに御提出いただければと思っておりますので、  
ひ つづ ねが  
引き続きお願いいたします。

ていしゅつきげん がつ にち もう わけ ていしゅつきじつ がつ げじゅんごろ  
提出期限が2月29日になっていますが、申し訳ございません。提出期日としては3月の下旬頃、  
がつ にち こいけんとう よ がつ にち すいしんきょう かいぎ  
3月22日ぐらいまでに御意見等をお寄せいただければ、3月28日に推進協の会議がございますの  
で、それまでにお寄せいただければと思いますし、また、御意見がなくて、それ以降もし何か御意見等  
があった場合でも、パブリックコメント等の機会もございますので、そのときにお寄せいただければ  
おも ひごろせいかつ なか こま  
と思っております。日頃生活されている中で、こういうところに困っていて、こういうふうになると  
すこ せいかつ こいけん あしたいこう  
もう少し生活がしやすくなるとか、そういったところを御意見のほうで、また明日以降まとめていた  
だいて、お寄せいただければと思いますのでぜひよろしくお願いいたします。

かいちょう けいかく すいしんきょうぎかい ぎろん  
【会長】 どうもありがとうございました。しょうがいしゃ計画が推進協議会のほうできちんと議論  
されていると思いますので、そこに意見があれば私たちも出していきたく。

では、ほかにありますでしょうか。市のほうはよろしいですか。

こいけん ふんかん つか こはつげん ふんまえ  
ほかに御意見があれば、あと5分間を使って御発言をいただいて、なければこれで5分前ですけれ  
ども閉じるということになります。オンラインの方たちはよろしいですか。

では、ちょっと早めですけれども……。

【委員】 トヨタ自動車のPDCAサイクルが、今、DCAPサイクルに変わっていて、やってみて改善をしていく。だから、最初に行動をしてから考えていくというのが、今の経営もそうだし、地域の計画も変わってくるんじゃないかと思いました。

【会長】 とても貴重な、でもポイントを抑えた御意見、ありがとうございました。まずやってみるということで。ただ、それで今おっしゃっていたように、改善をする、修正をするということも計画の中に入れて進めていただくということが基盤だと思います。ありがとうございました。

【委員】 3年前は、これに数字が示されていたと思うんですが、今回配られたのは概要版だと思うんですが、数字はどこで確認することができますか。

【事務局】 現在、その数値目標については作成中です。ただ、物的にはある程度できておりますので、数値目標もおおむね、例えばどこかを下げるというのはありません。正直言います、しょうがい福祉サービス全体的に全部右肩上がりな状況です。ですので、私たちとしては、今の上昇トレンドを踏まえた見込み量というのを積算させていただいております。ただ、数字の細かいところが、お知りになりたいということであれば、今現在審議中のものもお見せすることができますので、後ほどおっしゃっていただければお見せすることができます。

【会長】 お見せすることができるというか、それは見せなきゃいけないじゃないかと思うんですが、

【事務局】 そうですね。概要版というところで、例えば一部を数値の細かい審議そのものは推進協

でやらせていただいでいて、例えば特別に何か、推進協でよく言われるのが、精神しょうがいしゃの

方のグループホームがすごく少なくて困っているというのは寄せられていて、そういったところを

強化してほしいとかというところを意見としてはいただければすごくありがたいなと思っています。

最終的な結果そのものが、最終的にはパブリックコメント等でも確認できますので、そこでの確認

というのもありますし、数値、またお送りする……。

まだ審議途中のものでありますけれども、お見せることはできますので、しょうがい福祉計画の

ほうは、今審議途中のものを資料としてはお送りさせていただきたいと思います。

【会長】 ありがとうございます。審議は傍聴もできるんですか。

【事務局】 できます。全部公開ですので、何か隠し事は一切ありませんので、どうぞ。

【会長】 計画が出るときには、そこにきちんと数字が書かれていると思いますので、私たちも関心も持っているということです。

ちょうど時間になりました。御協力いただきましてありがとうございました。今日の案をぜひ形に

して何らかの具体的なマニフェストのような提案をしていただけると本当にありがたいと思います。

それには私たちも協力していきますので、ぜひよろしく願いいたします。ありがとうございました。  
た。